七師団戦記

あゝ沖縄

<116>

戦没一万八十五柱の霊にささぐ

藍木大尉の手記③

中東地区以南は、比較的ひらけていたが以北は、未開の森林地帯であった。そのなかで、金武村だけは、二百戸ほどの町。村近の平野は「年にお米が二度とれる」と豪にうたわれる沖縄唯一の水田地帯であった。

首都の首里以南は全くのサンゴ礁地帯。その岩の地表にソテツがおいしげっている。部落の街道にはパパイヤを植え畑には砂糖キビとサツマイモ。サツマイモは種類が多く、主食用と蒸餅用があった。馬は小柄で南洋島と日本馬の中間くらい。

原色の魚

南海特有の青、黄、赤

異国的な風俗やことば

⊗　⊗

部隊は、部落の民家をきけば、草ぶき兵舎に宿営した。住民の家屋生活の資材は、詳しくは調査できなかった。学校、役場、町庁にサンゴが見えるようだった。

沖縄の風俗に異様な感をもった。

夕方、畑仕事を終えた婦人がそろってイモをいれた方ゴを頭にのせて帰宅する姿をと、いまでも記憶に残っている。

中東部の石川部落や島尻部の糸満部落は漁師町として知られ、その魚類は、タコはごく小さくイカは特に大きい。海鼠で見かける浮袋小魚は、南洋特有の青黄、赤の原色にいろどられ、海底にサンゴが見えるようだった。

役場などには「標準語で話しましょう」とポスターがはられ、兵隊には、部落民同士の話は聞きとれなかった。おもに北海道出身の将兵は、同じ日本とはいいながら言葉の通じない異国風な沖縄の風俗に感慨を感じた。

⊗　⊗

部落の街道はパパイヤを植えた畑をぬけ、ソテツがおいしげっている。

「おまえたちは、戦争になったら、日本と米国と、どちらが勝つといいと思うか？」

そのときは

「どちらがとはいえない。たゞ戦争はしないほうがいい！」

当時、沖縄の青年のほとんどは、ハワイ、フイリピン、大阪、神戸に出かせぎしていた。その人の答えは、しょうじきであったといえよう。

手前の飛行場（中飛行場）では、連日、友軍機が数機、爆音高らかに飛んでいたが、二十年一月末、沖地飛基地の五、六百機が台湾を目ざすわが大編隊を見た。遠く南方に出動し、数々の戦果をあげている」との情報をきき、空軍の精鋭に敬意を表し、戦勝を祈ぐしたが、その後何日たっても北上する機影を見なかった。この大編隊は、台湾沖の戦闘に参加した最後の日本航空部隊であったことを知ったのは、だいぶたってからだった。

⊗　⊗

まだ戦闘にならないある日、十九年九月二日、師団司令部に第隊送致公がかかり、翌日師団長の訓示があった。

その要旨は

一、大本営の状況判断として九月三日以降、本島における決戦を予期する。

二、隷下は、ただちに戦闘しうるよう練成し、特に夜間戦闘のぎいそぐこと。

三、戦闘資材の整備を行なうこと。

四、教育訓練を実施すること。

五、宿営と戦闘態勢との一致を図ること。

六、米軍の兵力判断として①ギニア方面七個師団（日）オーストリアン二、四個師団（マッカーサー将軍の予備兵力として比島方面に使用するものゝこと）②状況によっては、比島以外

[redacted]

沖縄近海でとれる南海の貝。（おみやげとして売っている）

十九年一月から台湾にかけ、支に決戦する現、台湾、南西諸島、小笠原諸島にたいし、一般師団八個師団、特設師団五個師団を動員している。

（つゞく）

聞手　山田三郎・石井正孝

一部隊長の娘ハルさん（九州市）

七師団戦記

あゝ沖縄

<117>

戦没一万八千五百柱の霊にささぐ

慶良間列島

爆煙、全島おおう

米軍空襲、艦砲を開始

堅木大尉の手記

(一)六ないし八個師団以上のニミッツ軍は、比島以外に使用するか、時として比島にないし二個師団を使用することがある。

(二)別に新六個師団を有しその使用方面は戦況によるがそのなかに海兵五ないし七個師団でゆ延若干を有するのは注目すべきである。

七、米軍の配備状況＝ルソン七個師団(二三D、四三D、三七D、四〇D、ND、ND、一D)ニューカレドニア三個師団(五八I)レイテ八個師団(一KD、九六D、七D、二一D、二四D、三二D、七七D、ND)＝うち三個師団はルソンに使用するものの如し＝ミンドロ一個師団(ND)ビアク二個師団(四二D、ND)モロタイ一個師団(三七D)ボーンテア、アドミラルテー四個師団(四一D、一〇五D、七五D、ND)リユー七個師団(八一D、NZD)マーシャル二個師団(一二D、六一D、一〇六D、ND)ハワイ二個師団(六九D、ND)ギルバート一個師団(ND)ニューギニア八個師団(ND、ND、三D、五D、六D、七D、九D、四三D)ソロモン八個師団(二一D)ソロモン八個師団(二五D、三八D、九八D、九五D、AD、NZD、ND、ND)ニューカレドニア三個師団(二三D、ND、ND)以上マッカーサー軍計四十二個師団、うち六個師団はオーストラリア。

ニミッツ軍十四個師団(ND)ビアク二個師団(ND)サイパン二個師団(二七D、ND)モロタイ一個師団(三七D)ボーンテア、グアム二・五個師団(N三D)

以上、ニミッツ軍十四個師団は、ND、ND、ND

七師団戦記

あゝ沖縄

<118>

戦没一万八千五柱の聖にささぐ

師団命令

緊張する連隊本部

いよいよ第一線 戦闘に参加

極大尉の手記

昨夜、行なわれる特攻隊の活躍一番に消えた特攻隊員に敬意を表し、きたるべき陸戦で、必ずそのかたきをうつことを、何度も伊東第二大隊長とちかいあった。

電話不通後は、毎日、連絡兵をつれた摩木副官が、部隊本部へ命令受領にでかけた。本部は照屋東方二㌔の三叉路付近陣地にあった。伊東第二大隊の本部は、陣地の西南端・青龍山で二㌔はなれていた。途中、空からはまる見え。グラマン機に何度も追いまわされた。

戦情を重視しているうちに四月一日、米軍は、中南地区に上陸を開始した。石兵団の戦闘状況、満州、米軍の攻撃より、そうではないか」

師団命令 四月二十二日、部隊本部に師団命令がとどいた。伊東大隊長と摩木副官は、部隊本部へよばれた。北郷連隊長から命令をうけた。

「本日、二十四日夜のけまでに、その第一線をもって小波津、小那覇以南の線を確保（たてよむ）に固執し、その陣地前の敵の攻撃を撃破しながら、この方面のつっぱりばしら（支撐点）としろ（備

米軍軍政府司令部内の沖縄戦博物館の玄関、中央は沖縄北海道会会長宮平勝氏、左は、警花喜孝氏＝中頭郡宜野湾村居住＝

師事 山第二四七部隊下風部隊長の出ハルさん（札幌市・解説）

第一線戦闘参加 第一大隊は、

この師団命令を連隊本部では、師団命令とよび、連隊をはなれ

マンシップである」

「日本軍将校の大部分は、すでに投降しているのに、兵隊はなぜがんばっているのだ。むだな死をえらぶよりも、生きて郷里の父母とともに楽しくくらそうではないか」

「中南地区の軍人も住民も、いまは平和がおりくらしている。早く陣地を出て明るくくらそうではないか」

に生きようではないか」

以上のような意味の投降勧告文撒（ばら）工作ビラがばらまかれた。日本軍はこれらのビラに動揺しなかった。

部隊本部から破甲爆雷（黄色）の支給連絡がぎた。弾薬班長大日向軍曹（函館）が、班員をつれて受領の帰途、グラマンの襲撃をうけ草の根伏せでやられた。これが部隊本部最初の戦

「いよいよ四月二十四日夜明け。第一大隊は、・解説）

師団命令

緊張する連隊本部

いよいよ第一線 戦闘に参加

昨夜、行なわれる特攻隊の活躍一番に消えた特攻隊員に敬意を表し、きたるべき陸戦で、必ずそのかたきをうつことを、何度も伊東第二大隊長とちかいあった。

電話不通後は、毎日、連絡兵をつれた摩木副官が、部隊本部へ命令受領にでかけた。本部は照屋東方二㌔の三叉路付近陣地にあった。伊東第二大隊の本部は、陣地の西南端・青龍山で二㌔はなれていた。途中、空からはまる見え。グラマン機に何度も追いまわされた。

戦情を重視しているうちに四月一日、米軍は、中南地区に上陸を開始した。石兵団の戦闘状況、満州、米軍の攻撃より、そうではないか」

「日本軍将校の大部分は、すでに投降しているのに、兵隊はなぜがんばっているのだ。むだな死をえらぶよりも、生きて郷里の父母とともに楽しくくらそうではないか」

「中南地区の軍人も住民も、いまは平和がおりくらしている。早く陣地を出て明るくくらそうではないか」

マンシップである」

に生きようではないか」

以上のような意味の投降勧告文撒（ばら）工作ビラがばらまかれた。日本軍はこれらのビラに動揺しなかった。

部隊本部から破甲爆雷（黄色）の支給連絡がぎた。弾薬班長大日向軍曹（函館）が、班員をつれて受領の帰途、グラマンの襲撃をうけ草の根伏せでやられた。これが部隊本部最初の戦

師団命令 四月二十二日、部隊本部に師団命令がとどいた。伊東大隊長と摩木副官は、部隊本部へよばれた。北郷連隊長から命令をうけた。

「本日、二十四日夜のけまでに、その第一線をもって小波津、小那覇以南の線を確保（たてよむ）に固執し、その陣地前の敵の攻撃を撃破しながら、この方面のつっぱりばしら（支撐点）としろ（備

「いよいよ四月二十四日夜明け。第一大隊は、・解説）

師事 山第二四七部隊下風部隊長の出ハルさん（札幌市

第一線戦闘参加 第一大隊は、

この師団命令を連隊本部では、師団命令とよび、連隊をはなれ

七師団戦記

あゝ沖縄

<119>

戦没一万八十五柱の霊にささぐ

極木大尉手記 ⑥

伊東大隊長は

「山三四七五部隊の名誉にかけて敵を第一大隊の戦闘に、と期待するかさい」

と力強く言った。部隊勤務・山崎大尉（山形）が、出陣祝いの酒をもって進む伊東大隊長は、これを高のみそうけて一気に飲みほした。

極木副官と大久保中尉（通称本部兼第行李隊長・江部と出身）は、旭川北部第二部隊から師団に転属（昭和十六年七月）以来、ずっと一緒だった。師団中枢勤務になると極木副官は第一線、大久保中尉は、弾薬を補給する任務について後方に残り、何度しめったりは、別れ別れになるのが、宿命のようになっていた。

大久保中尉は

「いらいらきたな。どこへ行っても、おまえの好きなタバコの両日、首里東南御殿区に転進と海軍は補給してやるぞ」という。極木副官は

「おれは、ちょっとやそっとでは死なないぞ。とにかく、一緒に出陣。二十三日夜以降の西田部隊第一線への進出を準備せんぞ」

前線へ出発の準備

夜を待って行動開始

第一中尉（通称本部兼第行李隊長・江部と出身）は、旭川北部第二部隊から師団に転属（昭和十六年七月）以来、ずっと一緒だった。師団中枢勤務になると極木副官は第一線、大久保中尉は、弾薬を補給する任務について後方に残り、何度しめったりは、別れ別れになるのが、宿命のようになっていた。

大久保中尉は

「いらいらきたな。どこへ行っても、おまえの好きなタバコの両日、首里東南御殿区に転進と海軍は補給してやるぞ」という。極木副官は

「おれは、ちょっとやそっとでは死なないぞ。とにかく、一緒に出陣。二十三日夜以降の西田部隊第一線への進出を準備せんぞ」

一、大隊は本日夜、移動し、首里東南側三九高地周辺

二、出発時刻は二一時。

三、集合位置ならびに経路

第一梯団―阿波根東北御殿区―同仮宿―高良―高入端東端―長堂―国場東端―玻名東端―三九高地

第二梯団―座波東南部不正四叉路付近―座波―小禄―宜野湾―嘉山―一日橋―真栄原辺地区。

第三梯団―糸満駅付近―糸満駅―志多伯―東風平―友寄―神里―青屋敷―宮平―大名西南地区。

四、到着時刻―二十三日二時まで。

五、装備（とく）完了時刻―四時。

六、各部隊長は、出発ならびに指定位置を到着後、子のもと出身（不明）

下達法　各部隊の集合位置に指揮官を集め口述に指揮官は、部隊に達せ＝山三四七五

五、準備完了次第。

別に示す計画

一、師団は、第一梯団兵大山大尉、第二梯団兵伊東大尉

二、梯団長丁参大尉

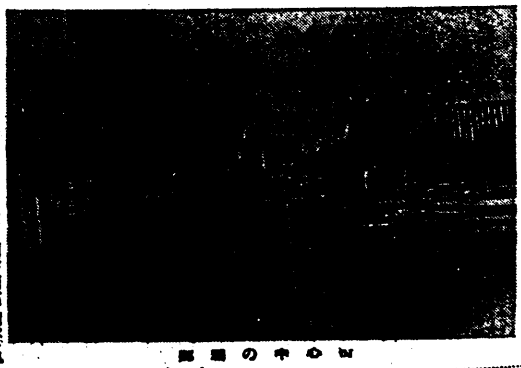
三、梯団長は、第一梯団兵大山大尉、第二梯団兵伊東大尉

以上のように移動開始を命令しました。

第一梯団は大山大尉を団長として伊東隊第一大隊本部（大山大尉、第二梯団兵伊東大尉）

戦記係から

七師団戦記・フチンハンの死闘一の子約出版を受けけけ中です。



部隊の中心の部隊

説明　山部三四七五部隊下長隊長・伊東孝一少佐（長野県）、大隊副官・極木武吉中尉（札幌）第二中隊（長・大山昇一大尉・岩手）第一機関銃小隊（長・高井和平中尉・青森）第二機関銃小隊（長・山田中尉・岩手）

七師団戦記

あゝ沖縄

<120>

戦没一万八千五柱の霊にささぐ

熊木大尉の手記の

第二梯団は半島大尉（山形）を団長に第一中隊（長・吉原左誠中尉―山形）と第一機関銃中隊、第三梯団は高橋隆大尉（秋田）を団長に、第三中隊（長・藤原中尉）―第二機関小隊欠―（長・三好大尉―出身地不明）。

動機夜間

四月二十二日早朝、各隊は、順々と出動準備をすすめた。不用物の処理、荷づめ保存、戦場者は、会長したい退及するよう指示して残置した。

夕きに、大隊本部付主計・直田中尉（岡山）から出陣祝いの酒肴が各隊にとどけられた。兵隊は、各隊長の訓示をきき、飯こうのうえたっぷりの酒盛に戦意を固めた。

夕方より小雨が降りだした。予定時刻の二十一時、部隊は出発開始。

会員そろっての機動は、中頭郡兵（会井江）と菊地兵長（角田）に、馬あつかいを命ずる。

第二梯団は、隊名東側付近を進んでいた。隊列のなかで迫撃砲弾がサク裂。熊木副官の乗馬が即死する。破片が腹部を貫通していたので、熊木副官は氏家軍医中尉（宮城）佐藤軍医少尉（広島）真鍋衛生伍長（秋田生）に見回らせた。奇声をあげた兵隊は発狂しており、負傷者は、いずれも重傷で、手のほどこしようがない―という。

戦列のなまなましさを痛感しているところへ、第二梯団隊長から報告。第一機関銃中隊の稲葉准尉、小野曹長（ともに山形）が戦死した―という。あの激しい砲弾下の夜間機動にして、損害がすくなかった―風聞、吉田部隊は、すでに軍主森・軍曹）

地区から馬乳地区へ移転した時以来のことだ。

第一梯団は、隊名東側付近を空襲、艦砲に約一カ月間たたかれ、山も畑も部落も、すっかり形をかえ、地面をえぐった砲弾のあとに、雨水がたまっている。部落はいずれも、煙をあげてくすぶりつづけ、牛馬の死臭が鼻をつく。

敵は、部隊の移動を察知したらしい。直迫軍砲弾、艦砲弾が前進部隊をねらってサク裂する。兵隊は伏せ、タマが通りすぎるのを待ってふたたび前進開始。たびたび至近弾に見舞われる。馬があぶない。伊東大隊長と熊木副官の乗馬は、鞍州から一緒に移転したものだ。川端上等兵（会井江）と菊地兵長（角田）に、馬あつかいを命ずる。

第一梯団は、隊名東側付近を進んでいた。隊列のなかで迫撃砲弾がサク裂。熊木副官の乗馬が即死する。破片が腹部を貫通していたので、熊木副官は氏家軍医中尉（宮城）佐藤軍医少尉（広島）真鍋衛生伍長（秋田生）に見回らせた。奇声をあげた兵隊は発狂しており、負傷者は、いずれも重傷で、手のほどこしようがない―という。

戦列のなまなましさを痛感しているところへ、第二梯団隊長から報告。第一機関銃中隊の稲葉准尉、小野曹長（ともに山形）が戦死した―という。あの激しい砲弾下の夜間機動にして、損害がすくなかった―風聞、吉田部隊は、すでに軍主森・軍曹）

砲弾さけては前進

地はだもすっかり変形

弾のあとに、雨水がたまっている。部落はいずれも、煙をあげてくすぶりつづけ、牛馬の死臭が鼻をつく。

敵は、部隊の移動を察知したらしい。直迫軍砲弾、艦砲弾が前進部隊をねらってサク裂する。兵隊は伏せ、タマが通りすぎるのを待ってふたたび前進開始。たびたび至近弾に見舞われる。馬があぶない。伊東大隊長と熊木副官の乗馬は、鞍州から一緒に移転したものだ。川端上等兵（会井江）と菊地兵長（角田）に、馬あつかいを命ずる。

第一梯団は、隊名東側付近を進んでいた。隊列のなかで迫撃砲弾がサク裂。熊木副官の乗馬が即死する。破片が腹部を貫通していたので、熊木副官は氏家軍医中尉（宮城）佐藤軍医少尉（広島）真鍋衛生伍長（秋田生）に見回らせた。奇声をあげた兵隊は発狂しており、負傷者は、いずれも重傷で、手のほどこしようがない―という。

戦列のなまなましさを痛感しているところへ、第二梯団隊長から報告。第一機関銃中隊の稲葉准尉、小野曹長（ともに山形）が戦死した―という。あの激しい砲弾下の夜間機動にして、損害がすくなかった―風聞、吉田部隊は、すでに軍主森・軍曹）

部隊夜間機動の門出の市場前広場、とよんでおり、写真をとることを許さぬ気配だった

占領地点へ向かう。その状況判断としては、

敵の第一梯は、小隊、上陸、翌朝の様子しい、和田部隊、部隊長の母ハルさん（札幌市

の死闘」の手紙出版を手ぬぐい付け中です。

（編字　山田三四七武陸下真

付近、地付近を占領しているらしい

七師団戦記・「ノモンハン

編集後から

二十三日二十四時、伊東大隊機動開始。第一梯団地の子宝の

× × × ×

どう穴内にはいる。まえに石兵団が、被服や雑まつ（袋）類に使用していたどう穴だ。奥の方に大勢の負傷兵がいた。彼等は到着した山兵団にどう穴をゆずり、三十人ほどを残してみんな出て行ってしまった。

ひとやすみしたころ、奥の負傷兵のたまりから奇声があがった。苦しそうなうめき声は、どう穴にはいった時から聞こえていたので、熊木副官は氏家軍医

で、あすの戦闘にそなえたのである。

七師団戦記

あゝ沖縄

<121>

戦没一万八千五柱の霊にささぐ

極木大尉の手記⑥

陣地占領

敵状を詳しく捜索

きり込み隊に潜状命令

二十四日二時、部隊は現地に到着。新才側では、各隊につぎのように陣地占領を命じた。

第二中隊（大山隊）と独立機関銃第三中隊は小禄陣地へ。第一中隊（斎藤隊）と第一機関銃中隊は安室側付近。

一個小隊は安室西北側地区。第三中隊（上原隊）と第一機関銃中隊主力は安室側付近。

大隊砲小隊は、一門を安室付近におき、主として北方に対して火力を準備する。一門は安室西北方におき、主として東方に対し火力を準備する。速射砲（当好隊）は、安室東側地区において、主として東北方に対し火力を準備し、状況によっては後方側も射撃できるように陣る。二十三日には、小禄川北側一個分隊（長・萩生中隊の今泉伍長）が敵の一部が侵入した。（前原伍長は千歳出身）と無線機を配置された。そこですぐ、北郷部隊長あてに陣地占領の報告をした。（有線は砲弾で切断された）

一、部隊主電報第二十号の如く、本二十四日四時現地に到着配備を完了する。

二、部隊の二十二日出発後の前進陣地を占領。陣地占領に当たっては、第二十二連隊の一個小隊との連絡を密ならしむべし。

前進陣地占領の時期は、本夜とし二十四時までに配備を完了すべし。右部隊は爾今（上こん）大隊長直轄とし、無線の時機は別命する。

四、第一中隊より本夜、下士官以下三名の斬り込み隊を一〇一・三付近に潜伏せしめ敵情力部隊の進出にともない、敵を求めて攻撃せしむべし。

また本夜将校斥候以下三人を派遣し、第二十二連隊の一個小隊と連絡のうえ、ウシクング原付近一〇一・三付近の敵情を偵察すべし。偵察時機は明二十五日天明までとす。

原字　山第三四七五部隊下風一郎豊見の母（ルさん（札幌市・軍似）

戦況一万八千五柱の霊にささぐ

四、和宇慶北側に、敵が組み立て兵舎を構築してある。

五、東海岸線の敵は、警戒がゆるやかで侵入は比較的に容易である。

× ×　× ×

伊東大隊は師団直轄となったので、師団通信一個分隊を配属され、同時に、配隊からは通信隊が、前進陣地を占領していき、小禄川北側一個分隊（長・萩生中隊の今泉伍長）が敵の一部が侵入した。

各隊は、予定のとおり午前四時までに陣地占領を終えた。大隊本部は、安室の西方二百尺の高地に位置した。将校斥候を二十三日夕刻出発させたが、その報告を総合すると、敵情は、つぎのとおりである。

一、わが陣地前面の海岸線久付近に歩兵第二十二連隊の一個小隊が、前進陣地を占領していき、同時に、配隊からは通信隊が、二十三日には、小禄川北側一個分隊（長・萩生中隊の今泉伍長）が敵の一部が侵入した。

二、ウシクング原には、敵戦車十、歩兵四、五百が陣地を占領している。同野原の西方五百の二〇一・三には敵が潜入している。

三、上貫北側に敵戦車二十、上原に歩兵約二千が潜入した。

× ×　× ×

十四時、連隊本部からの無線で、小禄港にいた高射砲一門の損傷、死傷十。

三、師団長に右連絡ねがいたい。

新兵配属をうけた。そこで、十五時、各隊に徹底のため命令を出した。

一、部隊はまず速やかに防衛線を強化し、敵を陣前に破砕（さい）すると共に師団主力攻勢のしとうたらんとす。

二、部隊は現況警戒に努めるとともに、すみやかに陣地を完成し、天明までの戦闘準備に万全を期すべし。二十四日後半夜に警戒を特に厳重ならしむべし。

三、第二中隊は小禄川および金城北側付近に歩兵第二中隊は小禄北側付近に歩兵

首里の博物館には、古代琉球の文化財が展示されている

七師団戦記

あゝ沖縄

<122>

戦没一万八千五百の霊にささぐ

星木大尉の手記⑨

六、第三中隊は下士官以下三名の抵身切り込みを明二日夜敢行しうることく準備すべし。

×× ××

二十四日十九時つぎの師団命令がでた。（師団司令部は与座にあった）

要強血出

切り込み隊を出し

敵の攻撃準備を乱す

一、師団正面の敵は、ウシクングル、上原、糸洲原北側高地の線にあって、最後の攻撃を準備中なるもののごとし。

二、師団は、抵身切り込みにより、敵の攻撃準備を混乱（じようらん＝さわぎみだすこと）せんとす。

三、和田大隊長と伊東大隊長は、今後、適時、切り込み班を潜入せしめ、敵の攻撃準備を妨害すべし。抵身切り込み攻撃目標は、主として人員殺傷ならびに迫撃砲の破壊とす。迫撃砲の携帯は、おおむね戦闘地域（その背岸を含む）による。

四、捜索連隊長ならびに戦車連隊長は、別に示す目標、および有利なる目標にたいし適時、敵人員に殺傷的出血を強要すべし。

「敵に出血を強要するため、従来、ややもすれば、夜間抵身切り込みに過度に依存する傾向なきにしもあらざるも、真に敵に大出血を強要し得るは、むしろ抵身切り込み班を潜入せしめ、敵の攻撃準備を乱すこと。師団は切り込み隊をもって、敵の攻撃準備の妨害を企図しあり。

二、部隊はさらに切り込み隊を独化し、敵の攻撃準備を妨害のものごとし。師団は切り込み隊をもって、敵の攻撃準備の妨害を企図しあり。

二、部隊はさらに切り込み隊を独化し、敵の攻撃準備を妨害のものごとし。師団は切り込みの抵身切り込みを敢行すべし。敵の攻撃準備を乱すべし。

（那覇市松尾町の小さな店。左へ五十米行けば、昔風のような面影通りがある）

大隊本部の位置は、安慶田部落（地図上では嘉原となっている）の西方二百米の高地である。

第二中隊（大山隊）の守備する小波津、浪花坂、小橋川部落がながめられる。これらの部落は、与那原湾（中城湾）にそそぐ大小の河川の流域にあり、与那原港につうずる道路が集中しているが、あたりは見さえない。とくに正面の上原高地（二五七高）と東南方にある運玉森（一六一高）の山すそになっていた。

依然、飯田と迫撃砲がすさまじい。師団は、一時間おきに敵陣地へとゆ。各部隊はくすぶりつづけ、見とおしがきかなかった。

二十五日、つぎの九項の大隊命令を発した。

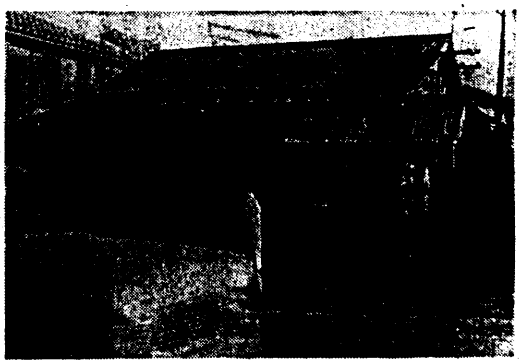
一、敵は依然、攻撃を準備中なるも、師団は、一時間おきに敵陣地へとゆ。各部隊はくすぶりつづけ、見とおしがきかなかった。

二十五日、つぎの九項の大隊命令を発した。

一、敵は依然、攻撃を準備中なるも、師団は、一時間おきに敵陣地へとゆ。各部隊はくすぶりつづけ、見とおしがきかなかった。

二十五日、つぎの九項の大隊命令を発した。

一、敵は依然、攻撃を準備中



二、部隊はさらに切り込み隊を独化し、敵の攻撃準備を妨害すべし。

三、前進部隊はさらに二〇一高地付近を目標、主陣地帯を奪取すべし。新たに前進部隊に配属すべし。

四、第二中隊は歩兵二小隊を新たに前進部隊に配属すべし。

戦記係から

「七師団戦記」

・ノモンハン

・三高地付近を目標、主陣地帯を奪取すべし。新たに前進部隊に配属すべし。

・前進部隊はさらに二〇一高地付近を目標、主陣地帯を奪取

七師団戦記

あゝ沖縄

<123>

戦没一万八千五柱の霊にささぐ

極木大尉手記 ⑲

五、黒野見習士官は陣地二名をもって太役さらに指揮久、ウシクンダ原付近の敵情を捜索すべし。

切り込み指令

六、井上見習士官以下三名は抵身切り込み隊となり、和宇慶付近敵長命を求めて攻撃、敵人員を殺傷すべし。

七、山木伍長以下三名は抵身切り込み隊となり一〇一・三高地西側付近、または上原付近の敵砲、迫（擲弾）を求めて攻撃すべし。

八、第一、第三中隊より各長（下士官または兵長）以下三名の抵身切り込み隊を明二十六日薄暮出しうることく準備すべし。

九、第二中隊より小隊長の指揮する平小隊を以って、明二十六日夜以降遊久北側付近の敵を奇襲しうることく準備すべ

し。

× × ×

敵情捜索隊（伝令の選抜）および部隊本部、隣接吉田部隊との連絡を綜合した二十六日の大隊命令。

砲煙弾雨のなかで…

敵の攻撃を擾乱す

一、敵は糸満、帝地間に進入し、糸満南側谷地にも相当数、前進しきたり小橋川北方にも敵進入せるものの如くであって、明天明以降、敵攻撃再行の算、極めて大なり。主陣地帯の戦闘にあたりては協同兵の協同を緊密ならしむること。

二、部隊はますます戦闘準備を強化するとともに、切り込み隊を増派し、敵の攻撃準備をじゃまし（撹）乱せんとす。

三、大隊砲小隊は西北方に対する配備を強化するとともに、機関銃の一部をもって、吉田部隊方向を有効に制防しうること。

四、進撃砲中隊は、西北方に対する火力準備を強化すべし。

五、残余の諸隊は西北方に対し、敵情捜索（伝令の選抜）および部隊本部、隣接吉田部隊との連絡を綜合した二十六日の大隊命令。

二十七日八時ごろ、小渡林上空に大編隊が襲来、急降下攻撃をはじめた。砲撃音がすさまじい。小渡林付近の一帯は砲煙弾雨につつまれ、なにも見えない。大山隊から連絡がはいった。ただちに部隊命令を発す。

（二十七日十時）

一、第二中隊は戦車四台をともなう敵と交戦中なり。吉田部隊は、糸満南側谷地および翁地付近において戦闘中のもののごとく熾烈なる銃声を聞く。我部付近においても、時おり銃声あり。

二、部隊は敵を陣前に撃滅せんとす。

三、各隊は予定の計画にもとづくが、一応、十時ごろ、以下は次回にまわす。

（極木さんの手記は、まだつづく）

首里博物館内のつりがね。（戦争中、大砲のタマにされるところだったーと言っていた）

聞き手・山田三良七師団戦記編集員
一部責任者の談・ハルさん（札幌市・郵便）

つぎ戦闘を開始すべし。

四、第二中隊は有力なる一部火力をもって、吉田部隊正面を側防すべし。

安波茶陣地

まっ先に小隊長戦死

戦況打開にさり込みへ

七師団戦記

あゝ沖縄

<124>

戦没一万八十五柱の霊にささぐ

四月二十八日、山三四七部隊（長▽第一分隊長新田三郎軍曹▽第二分隊長牧田重吉伍長（住吉）▽第三大隊（長・田川興介大尉）▽第二分隊長白石大蔵准尉）▽第二小隊長白石大蔵准尉）▽第二、三百はさがったところに陣地を構築した。波状砲中隊は、第線から出中隊（長・加藤一郎中尉）▽第一小隊長・山崎西一伍長（住

七師団戦記

あ、沖縄

戦没一万八十五柱の霊にささぐ

<125>

五月二日。砲兵隊所からの砲撃。

「敵戦車ッ！」

見れば、M4戦車数台が、ピカピカ光りながら前進してくる。兵隊は一瞬緊張し、すぐ砲側についた。だが、戦車は、砲口よりすうっとその位置を撃てない。残念だが、ただ見守っているだけだ。

戦車出現

速射砲中隊 戦死者九十五人（2）

■敬称略■

山崎栄峰さん（調査（小樽緑町四ノ八）斎藤）雄（小樽志都呂石町沼川・五月二十日一四〇高地）紙谷仲治（小樽・四月十七日紅葉山）久保誠一（小樽大正村・四月十日東風亜細亜）佐藤宗治（美唄・五月十七日一四〇高地）片倉保雄（静好北山・六月十日島尻伊敷）南延市（不明・五月九日一三〇高地）佐々木藤次郎（田都大野町・六月二十日伊敷）犀生秀雄（小樽色内町・五月十五日一三〇高地）辻富郎（江差町・五月十七日一四〇高地）寺尾光夫（野都町磯谷・六月二十日伊敷）兵長・和田章十郎（旧加内町・五月一日田）西井政治（小谷正雄（久遠郡大成村長磯・五月二日。砲撃・五月十六日一三〇高地）鈴木（小樽・五月十六日一三〇高地）佐藤（小樽・五月十六日一三〇高地）佐藤（小樽・五月十六日一三〇高地）佐藤

七師団戦記

あ、沖縄

<126>

戦没二万八千五百柱の霊にささぐ

全員ことごとく玉砕か？

決意さなかに転進命令

安波茶をさる

大きなサクラ咲き、土砂くずれ、陣地へ近づけゆくところ、日本軍の光の防戦、米軍は求める叫び、はらわたをえぐる形勢不利となって、後退しつつ、よろよろひく、軍旗奪れ、撃ち、敵味方とも相当な被害、死に命中、宣撫班、で、軍旗奪取、第二分隊は、砲を分解してか兵と、情報分組、ト、ら、つ、ぎ、消えない線香のなか、等兵が戦死、そ、な、負、ことに、玉砕、大本営、の絶叫だった、ただ、えまた、沖縄の中、久無で、ゆ、ゆ、つ、内が振動しつつは、る、じっとしていい、る以外、どうにも、ならない。

ひとしきり、すさまじい砲、撃、そしておんだ、ホ、とわれ、にかえった、とんだ、

「敵襲ア！」

小銃隊の兵隊が、銃を握って外、へ走る、道路脇の兵隊も四、五人銃をもってあとを追う、外、から銃撃、小銃を構えながら、間内になっている、梁中現火を、かひびいてくる、ひきひめく大、あひたがらの後退、後続隊はず、で、現実となってあらわれ、

（文中・敵襲・銃・茶を、陸兵団）

にまかせ、山兵団は、この夜と、を後退することとなった。

米ときは、どうにか逃って、これ、兵が、すでに、敵の射程距、内になっている、梁中現火を、原伊彦）山田芳次郎（宮内・六月一千百伊彦）上井田敬（宮内・六月一千百伊彦）西銘繁次郎（不明・五月十七日首里二五〇高地）

5月4日総攻撃を決行、一大攻撃に転ずるから、山兵団は各部隊ごとに奮戦せよ」

二十日一四〇高地）島口勝（不明・五月二十日一四〇高地）山田利光（大野・六月一千百伊彦）三木作信（鹿児島・六月一千百伊彦）山田吉広（鹿志郡・六月一千百伊彦）

水谷・六月一千百伊彦）鈴木遠雄（森・五月十五日首里一三一高地）西田繁雄（給山郡上ホ国・五月一千百一四〇高地）若山幸一郎（島田郡ト村・五月一千百二四〇高地）加藤義美（小樽桜川町・六月一千百伊彦）

対島第二万・六月一千百伊彦）

戦記係から

原宇　山田三四七五部隊下風一郎軍曹の母ハルさん（札幌市琴似四）

本人は早速会員からタイムスの編ホールで「北海道沖縄

戦没二万八千五百柱の霊にささぐ

大きなサクラ咲き、土砂くずれ、陣地へ近づけゆくところ、日本軍の光の防戦、米軍は求める叫び、はらわたをえぐる形勢不利となって、後退しつつ、よろよろひく、軍旗奪れ、撃ち、敵味方とも相当な被害、死に命中、宣撫班、で、軍旗奪取、第二分隊は、砲を分解してか兵と、情報分組、ト、ら、つ、ぎ、消えない線香のなか等兵が戦死、そ、な、負、ことに、玉砕、大本営、の絶叫だった、ただ、えまた、沖縄の中、久無で、ゆ、ゆ、つ、内が振動しつつは、る、じっとしていい、る以外、どうにも、ならない。

ひとしきり、すさまじい砲、撃、そしておんだ、ホ、とわれ、にかえった、とんだ、

「敵襲ア！」

小銃隊の兵隊が、銃を握って外、へ走る、道路脇の兵隊も四、五人銃をもってあとを追う、外、から銃撃、小銃を構えながら、間内になっている、梁中現火を、かひびいてくる、ひきひめく大、あひたがらの後退、後続隊はず、で、現実となってあらわれ、

（文中・敵襲・銃・茶を、陸兵団）

にまかせ、山兵団は、この夜と、を後退することとなった。

米ときは、どうにか逃って、これ、兵が、すでに、敵の射程距、内になっている、梁中現火を、原伊彦）山田芳次郎（宮内・六月一千百伊彦）上井田敬（宮内・六月一千百伊彦）西銘繁次郎（不明・五月十七日首里二五〇高地）

5月4日総攻撃を決行、一大攻撃に転ずるから、山兵団は各部隊ごとに奮戦せよ」

二十日一四〇高地）島口勝（不明・五月二十日一四〇高地）山田利光（大野・六月一千百伊彦）三木作信（鹿児島・六月一千百伊彦）山田吉広（鹿志郡・六月一千百伊彦）

水谷・六月一千百伊彦）鈴木遠雄（森・五月十五日首里一三一高地）西田繁雄（給山郡上ホ国・五月一千百一四〇高地）若山幸一郎（島田郡ト村・五月一千百二四〇高地）加藤義美（小樽桜川町・六月一千百伊彦）

対島第二万・六月一千百伊彦）

戦記係から

原宇　山田三四七五部隊下風一郎軍曹の母ハルさん（札幌市琴似四）

本人は早速会員からタイムスの編ホールで「北海道沖縄

八ケ山になった陣地で死闘を繰返す日本軍に、火炎放射器付き戦車で攻撃する米軍＝米軍撮影（防衛庁戦史室提供）

七師団戦記

あゝ沖縄

<127>

戦没一万八十五柱の霊にささぐ

初年兵

突撃がこわくなり

ごう内で自決覚悟

（沖縄戦当時十六歳で防衛隊員をつとめた大木芳雄さん。いま、糸満町の昭和バスの運転手、立川ヒロミ伍長、金子三千雄上等兵、柳田一等兵にかわいがられた、授してほしいーといっている）

（編集局から）

『七師団戦記』・ノモンハンの死闘』の子約出版を受け付け中です。

題字　山田三四七五歳陸下風一郎軍長の孫ハルさん。（編集局）

戦没一万八十五柱の霊にささぐ

初年兵

突撃がこわくなり

ごう内で自決覚悟

（沖縄戦の記録）

（沖縄戦当時十六歳で防衛隊員をつとめた大木芳雄さん。いま、糸満町の昭和バスの運転手、立川ヒロミ伍長、金子三千雄上等兵、柳田一等兵にかわいがられた、授してほしいーといっている）

（編集局から）

『七師団戦記』・ノモンハンの死闘』の子約出版を受け付け中です。

題字　山田三四七五歳陸下風一郎軍長の孫ハルさん。（編集局）

七師団戦記

あゝ沖縄

<128>

戦没一万八十五柱の聖にささぐ

かあさん

呼びながら絶命

断ちきれぬ思慕をいだき

この日（五月一日）の戦死者は、ほかに第六中隊上等兵（岡毛）川上芳高上等兵（八芝）川島三郎上等兵（北海道）岩谷光雄一等兵（手稲）鈴木善一上等兵（長万部）彩本信上等兵（北海道）田中ツンチ一等兵（八雲）佐々木次郎上等兵（松前）加藤健治上等兵（函館）

戦死しあるいは負傷し、生きている兵隊もみんな負傷している。それでも戦闘を続けている人。敵を撃ちまくっていた兵隊上等兵が決然と立ちあがった。

長兵上等兵が金城一等兵をなぐさめているとき、荒木上等兵が泣き顔で走ってきた。

「中隊指揮班が全滅したらしいぞ！」

後方を見れば煙がたちのぼっている。やられたか！指揮者をつぎつぎに失い、兵隊は個人戦闘を展開中だ。木口恒好中隊長（四国出身、当時二十四歳）は、敵から自動小銃をうばい、それを持って味方もおびやかすような勇敢さで戦っている。撃ちまくられる負傷兵には、あちこちひとりぼっちで「よくやった、よくやった」となぐさめ、はげましていた。負傷兵は「残念だが、小銃弾で倒されたが、出血がひどく、死が目前に迫っていた。中田一等兵は泣きながら

「かあさん…かあさん、栄一は、かあさんに孝行をしないで死んでゆく…」と、絶命するまで、母を恋しがり、遂に赤ん坊が泣き疲れるように死んでいった。

中田栄一一等兵（函館）は、中隊指揮班の唯一の志願兵で二十一歳。小柄で、富顔の彼を、みんなは「ボーヤ」の愛称でよんでいた。父がなく、姉と妹の三人きょうだいだけ残念ですッ！」と、くやし泣きに泣きむせび、後髪をいやがっていた。

× ×

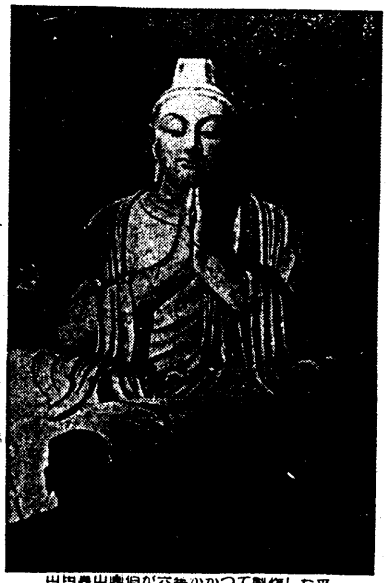
五月一日、きのう、中隊指揮班が戦車攻撃をうけ全滅したとの報告は、調査の結果、敵戦車をわが工兵隊が肉薄攻撃で方々座炎上させた煙とわかり、午後一時ごろ、敵の攻撃が、ふたたび激しくなった。

「第二小隊から斥候一人をだし、出血がひどい。負傷者は四名に達した。長兵上等兵は四名に負傷者を出せ」

戦友の兵隊、小前上等兵がとめ手にはゲートルをかなぐりすてせんぐをぬき、走る敵兵めがけて発砲つづけた。

だが、のむ水も、たべる食物もない。それにくわえて連日不眠不休の戦闘で気がおかしくなっていた。十手に小銃、十小銃弾が雨をとって、しゃにむにに長兵上等兵の口もとをかすめる。だがおそろしいとも、生きたいーと思わなくなっていた。

四十メートルくらい進んだ。雑草がほんの二三本、気やすめだけ、そのかげに身をかくし、立ちひざの姿勢で敵状をうかがった。三十メートルくらい前方の木へ、米兵四人が走り去るのが見えた。前後の考えもなく手りゅう弾の安全ピンを抜いた。



かつて製作した平和観音像＝麻文仁山内氏提供

（第二部山口氏提供）

（第三部山口氏提供）

（第四部山口氏提供）

（第五部山口氏提供）

（第六部山口氏提供）

（第七部山口氏提供）

（第八部山口氏提供）

（第九部山口氏提供）

（第十部山口氏提供）

（第十一部山口氏提供）

（第十二部山口氏提供）

（第十三部山口氏提供）

（第十四部山口氏提供）

（第十五部山口氏提供）

（第十六部山口氏提供）

（第十七部山口氏提供）

（第十八部山口氏提供）

（第十九部山口氏提供）

（第二十部山口氏提供）

（第二十一部山口氏提供）

（第二十二部山口氏提供）

（第二十三部山口氏提供）

（第二十四部山口氏提供）

（第二十五部山口氏提供）

（第二十六部山口氏提供）

（第二十七部山口氏提供）

（第二十八部山口氏提供）

（第二十九部山口氏提供）

（第三十部山口氏提供）

（第三十一部山口氏提供）

（第三十二部山口氏提供）

（第三十三部山口氏提供）

（第三十四部山口氏提供）

（第三十五部山口氏提供）

（第三十六部山口氏提供）

（第三十七部山口氏提供）

（第三十八部山口氏提供）

（第三十九部山口氏提供）

（第四十部山口氏提供）

（第四十一部山口氏提供）

（第四十二部山口氏提供）

（第四十三部山口氏提供）

（第四十四部山口氏提供）

（第四十五部山口氏提供）

（第四十六部山口氏提供）

（第四十七部山口氏提供）

（第四十八部山口氏提供）

（第四十九部山口氏提供）

（第五十部山口氏提供）

（第五十一部山口氏提供）

（第五十二部山口氏提供）

（第五十三部山口氏提供）

（第五十四部山口氏提供）

（第五十五部山口氏提供）

（第五十六部山口氏提供）

（第五十七部山口氏提供）

（第五十八部山口氏提供）

（第五十九部山口氏提供）

（第六十部山口氏提供）

（第六十一部山口氏提供）

（第六十二部山口氏提供）

（第六十三部山口氏提供）

（第六十四部山口氏提供）

（第六十五部山口氏提供）

（第六十六部山口氏提供）

（第六十七部山口氏提供）

（第六十八部山口氏提供）

（第六十九部山口氏提供）

（第七十部山口氏提供）

（第七十一部山口氏提供）

（第七十二部山口氏提供）

（第七十三部山口氏提供）

（第七十四部山口氏提供）

（第七十五部山口氏提供）

（第七十六部山口氏提供）

（第七十七部山口氏提供）

（第七十八部山口氏提供）

（第七十九部山口氏提供）

（第八十部山口氏提供）

（第八十一部山口氏提供）

（第八十二部山口氏提供）

（第八十三部山口氏提供）

（第八十四部山口氏提供）

（第八十五部山口氏提供）

（第八十六部山口氏提供）

（第八十七部山口氏提供）

（第八十八部山口氏提供）

（第八十九部山口氏提供）

（第九十部山口氏提供）

（第九十一部山口氏提供）

（第九十二部山口氏提供）

（第九十三部山口氏提供）

（第九十四部山口氏提供）

（第九十五部山口氏提供）

（第九十六部山口氏提供）

（第九十七部山口氏提供）

（第九十八部山口氏提供）

（第九十九部山口氏提供）

（第百部山口氏提供）

（第百一部山口氏提供）

（第百二部山口氏提供）

（第百三部山口氏提供）

（第百四部山口氏提供）

（第百五部山口氏提供）

（第百六部山口氏提供）

（第百七部山口氏提供）

（第百八部山口氏提供）

（第百九部山口氏提供）

（第百十部山口氏提供）

（第百十一部山口氏提供）

（第百十二部山口氏提供）

（第百十三部山口氏提供）

（第百十四部山口氏提供）

（第百十五部山口氏提供）

（第百十六部山口氏提供）

（第百十七部山口氏提供）

（第百十八部山口氏提供）

（第百十九部山口氏提供）

（第百二十部山口氏提供）

（第百二十一部山口氏提供）

（第百二十二部山口氏提供）

（第百二十三部山口氏提供）

（第百二十四部山口氏提供）

（第百二十五部山口氏提供）

（第百二十六部山口氏提供）

（第百二十七部山口氏提供）

（第百二十八部山口氏提供）

（第百二十九部山口氏提供）

（第百三十部山口氏提供）

（第百三十一部山口氏提供）

（第百三十二部山口氏提供）

（第百三十三部山口氏提供）

（第百三十四部山口氏提供）

（第百三十五部山口氏提供）

（第百三十六部山口氏提供）

（第百三十七部山口氏提供）

（第百三十八部山口氏提供）

（第百三十九部山口氏提供）

（第百四十部山口氏提供）

（第百四十一部山口氏提供）

（第百四十二部山口氏提供）

（第百四十三部山口氏提供）

（第百四十四部山口氏提供）

（第百四十五部山口氏提供）

（第百四十六部山口氏提供）

（第百四十七部山口氏提供）

（第百四十八部山口氏提供）

（第百四十九部山口氏提供）

（第百五十部山口氏提供）

（第百五十一部山口氏提供）

（第百五十二部山口氏提供）

（第百五十三部山口氏提供）

（第百五十四部山口氏提供）

（第百五十五部山口氏提供）

（第百五十六部山口氏提供）

（第百五十七部山口氏提供）

（第百五十八部山口氏提供）

（第百五十九部山口氏提供）

（第百六十部山口氏提供）

（第百六十一部山口氏提供）

（第百六十二部山口氏提供）

（第百六十三部山口氏提供）

（第百六十四部山口氏提供）

（第百六十五部山口氏提供）

（第百六十六部山口氏提供）

（第百六十七部山口氏提供）

（第百六十八部山口氏提供）

（第百六十九部山口氏提供）

（第百七十部山口氏提供）

（第百七十一部山口氏提供）

（第百七十二部山口氏提供）

（第百七十三部山口氏提供）

（第百七十四部山口氏提供）

（第百七十五部山口氏提供）

（第百七十六部山口氏提供）

（第百七十七部山口氏提供）

（第百七十八部山口氏提供）

（第百七十九部山口氏提供）

（第百八十部山口氏提供）

（第百八十一部山口氏提供）

（第百八十二部山口氏提供）

（第百八十三部山口氏提供）

（第百八十四部山口氏提供）

（第百八十五部山口氏提供）

（第百八十六部山口氏提供）

（第百八十七部山口氏提供）

（第百八十八部山口氏提供）

（第百八十九部山口氏提供）

（第百九十部山口氏提供）

（第百九十一部山口氏提供）

（第百九十二部山口氏提供）

（第百九十三部山口氏提供）

（第百九十四部山口氏提供）

（第百九十五部山口氏提供）

（第百九十六部山口氏提供）

（第百九十七部山口氏提供）

（第百九十八部山口氏提供）

（第百九十九部山口氏提供）

（第二百部山口氏提供）

（第二百一部山口氏提供）

（第二百二部山口氏提供）

（第二百三部山口氏提供）

（第二百四部山口氏提供）

（第二百五部山口氏提供）

（第二百六部山口氏提供）

（第二百七部山口氏提供）

（第二百八部山口氏提供）

（第二百九部山口氏提供）

（第二百十部山口氏提供）

（第二百十一部山口氏提供）

（第二百十二部山口氏提供）

（第二百十三部山口氏提供）

（第二百十四部山口氏提供）

（第二百十五部山口氏提供）

（第二百十六部山口氏提供）

（第二百十七部山口氏提供）

（第二百十八部山口氏提供）

（第二百十九部山口氏提供）

（第二百二十部山口氏提供）

（第二百二十一部山口氏提供）

（第二百二十二部山口氏提供）

（第二百二十三部山口氏提供）

（第二百二十四部山口氏提供）

（第二百二十五部山口氏提供）

（第二百二十六部山口氏提供）

（第二百二十七部山口氏提供）

（第二百二十八部山口氏提供）

（第二百二十九部山口氏提供）

（第二百三十部山口氏提供）

（第二百三十一部山口氏提供）

（第二百三十二部山口氏提供）

（第二百三十三部山口氏提供）

（第二百三十四部山口氏提供）

（第二百三十五部山口氏提供）

（第二百三十六部山口氏提供）

（第二百三十七部山口氏提供）

（第二百三十八部山口氏提供）

（第二百三十九部山口氏提供）

（第二百四十部山口氏提供）

（第二百四十一部山口氏提供）

（第二百四十二部山口氏提供）

（第二百四十三部山口氏提供）

（第二百四十四部山口氏提供）

（第二百四十五部山口氏提供）

（第二百四十六部山口氏提供）

（第二百四十七部山口氏提供）

（第二百四十八部山口氏提供）

（第二百四十九部山口氏提供）

（第二百五十部山口氏提供）

（第二百五十一部山口氏提供）

（第二百五十二部山口氏提供）

（第二百五十三部山口氏提供）

（第二百五十四部山口氏提供）

（第二百五十五部山口氏提供）

（第二百五十六部山口氏提供）

（第二百五十七部山口氏提供）

（第二百五十八部山口氏提供）

（第二百五十九部山口氏提供）

（第二百六十部山口氏提供）

（第二百六十一部山口氏提供）

（第二百六十二部山口氏提供）

（第二百六十三部山口氏提供）

（第二百六十四部山口氏提供）

（第二百六十五部山口氏提供）

（第二百六十六部山口氏提供）

（第二百六十七部山口氏提供）

（第二百六十八部山口氏提供）

（第二百六十九部山口氏提供）

（第二百七十部山口氏提供）

（第二百七十一部山口氏提供）

（第二百七十二部山口氏提供）

（第二百七十三部山口氏提供）

（第二百七十四部山口氏提供）

（第二百七十五部山口氏提供）

（第二百七十六部山口氏提供）

（第二百七十七部山口氏提供）

（第二百七十八部山口氏提供）

（第二百七十九部山口氏提供）

（第二百八十部山口氏提供）

（第二百八十一部山口氏提供）

（第二百八十二部山口氏提供）

（第二百八十三部山口氏提供）

（第二百八十四部山口氏提供）

（第二百八十五部山口氏提供）

（第二百八十六部山口氏提供）

（第二百八十七部山口氏提供）

（第二百八十八部山口氏提供）

（第二百八十九部山口氏提供）

（第二百九十部山口氏提供）

（第二百九十一部山口氏提供）

（第二百九十二部山口氏提供）

（第二百九十三部山口氏提供）

（第二百九十四部山口氏提供）

（第二百九十五部山口氏提供）

（第二百九十六部山口氏提供）

（第二百九十七部山口氏提供）

（第二百九十八部山口氏提供）

（第二百九十九部山口氏提供）

（第三百部山口氏提供）

（第三百一部山口氏提供）

（第三百二部山口氏提供）

（第三百三部山口氏提供）

（第三百四部山口氏提供）

（第三百五部山口氏提供）

（第三百六部山口氏提供）

（第三百七部山口氏提供）

（第三百八部山口氏提供）

（第三百九部山口氏提供）

（第三百十部山口氏提供）

（第三百十一部山口氏提供）

（第三百十二部山口氏提供）

（第三百十三部山口氏提供）

（第三百十四部山口氏提供）

（第三百十五部山口氏提供）

（第三百十六部山口氏提供）

（第三百十七部山口氏提供）

（第三百十八部山口氏提供）

（第三百十九部山口氏提供）

（第三百二十部山口氏提供）

（第三百二十一部山口氏提供）

（第三百二十二部山口氏提供）

（第三百二十三部山口氏提供）

（第三百二十四部山口氏提供）

（第三百二十五部山口氏提供）

（第三百二十六部山口氏提供）

（第三百二十七部山口氏提供）

（第三百二十八部山口氏提供）

（第三百二十九部山口氏提供）

（第三百三十部山口氏提供）

（第三百三十一部山口氏提供）

（第三百三十二部山口氏提供）

（第三百三十三部山口氏提供）

（第三百三十四部山口氏提供）

（第三百三十五部山口氏提供）

（第三百三十六部山口氏提供）

（第三百三十七部山口氏提供）

（第三百三十八部山口氏提供）

（第三百三十九部山口氏提供）

（第三百四十部山口氏提供）

（第三百四十一部山口氏提供）

（第三百四十二部山口氏提供）

（第三百四十三部山口氏提供）

（第三百四十四部山口氏提供）

（第三百四十五部山口氏提供）

（第三百四十六部山口氏提供）

（第三百四十七部山口氏提供）

（第三百四十八部山口氏提供）

（第三百四十九部山口氏提供）

（第三百五十部山口氏提供）

（第三百五十一部山口氏提供）

（第三百五十二部山口氏提供）

（第三百五十三部山口氏提供）

（第三百五十四部山口氏提供）

（第三百五十五部山口氏提供）

（第三百五十六部山口氏提供）

（第三百五十七部山口氏提供）

（第三百五十八部山口氏提供）

（第三百五十九部山口氏提供）

（第三百六十部山口氏提供）

（第三百六十一部山口氏提供）

（第三百六十二部山口氏提供）

（第三百六十三部山口氏提供）

（第三百六十四部山口氏提供）

（第三百六十五部山口氏提供）

（第三百六十六部山口氏提供）

（第三百六十七部山口氏提供）

（第三百六十八部山口氏提供）

（第三百六十九部山口氏提供）

（第三百七十部山口氏提供）

（第三百七十一部山口氏提供）

（第三百七十二部山口氏提供）

（第三百七十三部山口氏提供）

（第三百七十四部山口氏提供）

（第三百七十五部山口氏提供）

（第三百七十六部山口氏提供）

（第三百七十七部山口氏提供）

（第三百七十八部山口氏提供）

（第三百七十九部山口氏提供）

（第三百八十部山口氏提供）

（第三百八十一部山口氏提供）

（第三百八十二部山口氏提供）

（第三百八十三部山口氏提供）

（第三百八十四部山口氏提供）

（第三百八十五部山口氏提供）

（第三百八十六部山口氏提供）

（第三百八十七部山口氏提供）

（第三百八十八部山口氏提供）

（第三百八十九部山口氏提供）

（第三百九十部山口氏提供）

（第三百九十一部山口氏提供）

（第三百九十二部山口氏提供）

（第三百九十三部山口氏提供）

（第三百九十四部山口氏提供）

（第三百九十五部山口氏提供）

（第三百九十六部山口氏提供）

（第三百九十七部山口氏提供）

（第三百九十八部山口氏提供）

（第三百九十九部山口氏提供）

（第四百部山口氏提供）

（第四百一部山口氏提供）

（第四百二部山口氏提供）

（第四百三部山口氏提供）

（第四百四部山口氏提供）

（第四百五部山口氏提供）

（第四百六部山口氏提供）

（第四百七部山口氏提供）

（第四百八部山口氏提供）

（第四百九部山口氏提供）

（第四百十部山口氏提供）

（第四百十一部山口氏提供）

（第四百十二部山口氏提供）

（第四百十三部山口氏提供）

（第四百十四部山口氏提供）

（第四百十五部山口氏提供）

（第四百十六部山口氏提供）

（第四百十七部山口氏提供）

（第四百十八部山口氏提供）

（第四百十九部山口氏提供）

（第四百二十部山口氏提供）

（第四百二十一部山口氏提供）

（第四百二十二部山口氏提供）

（第四百二十三部山口氏提供）

（第四百二十四部山口氏提供）

（第四百二十五部山口氏提供）

（第四百二十六部山口氏提供）

（第四百二十七部山口氏提供）

（第四百二十八部山口氏提供）

（第四百二十九部山口氏提供）

（第四百三十部山口氏提供）

（第四百三十一部山口氏提供）

（第四百三十二部山口氏提供）

（第四百三十三部山口氏提供）

（第四百三十四部山口氏提供）

（第四百三十五部山口氏提供）

（第四百三十六部山口氏提供）

（第四百三十七部山口氏提供）

（第四百三十八部山口氏提供）

（第四百三十九部山口氏提供）

（第四百四十部山口氏提供）

（第四百四十一部山口氏提供）

（第四百四十二部山口氏提供）

（第四百四十三部山口氏提供）

（第四百四十四部山口氏提供）

（第四百四十五部山口氏提供）

（第四百四十六部山口氏提供）

（第四百四十七部山口氏提供）

（第四百四十八部山口氏提供）

（第四百四十九部山口氏提供）

（第四百五十部山口氏提供）

（第四百五十一部山口氏提供）

（第四百五十二部山口氏提供）

（第四百五十三部山口氏提供）

（第四百五十四部山口氏提供）

（第四百五十五部山口氏提供）

（第四百五十六部山口氏提供）

（第四百五十七部山口氏提供）

（第四百五十八部山口氏提供）

（第四百五十九部山口氏提供）

（第四百六十部山口氏提供）

（第四百六十一部山口氏提供）

（第四百六十二部山口氏提供）

（第四百六十三部山口氏提供）

（第四百六十四部山口氏提供）

（第四百六十五部山口氏提供）

（第四百六十六部山口氏提供）

（第四百六十七部山口氏提供）

（第四百六十八部山口氏提供）

（第四百六十九部山口氏提供）

（第四百七十部山口氏提供）

（第四百七十一部山口氏提供）

（第四百七十二部山口氏提供）

（第四百七十三部山口氏提供）

（第四百七十四部山口氏提供）

（第四百七十五部山口氏提供）

（第四百七十六部山口氏提供）

（第四百七十七部山口氏提供）

（第四百七十八部山口氏提供）

（第四百七十九部山口氏提供）

（第四百八十部山口氏提供）

（第四百八十一部山口氏提供）

（第四百八十二部山口氏提供）

（第四百八十三部山口氏提供）

（第四百八十四部山口氏提供）

（第四百八十五部山口氏提供）

（第四百八十六部山口氏提供）

（第四百八十七部山口氏提供）

（第四百八十八部山口氏提供）

（第四百八十九部山口氏提供）

（第四百九十部山口氏提供）

（第四百九十一部山口氏提供）

（第四百九十二部山口氏提供）

（第四百九十三部山口氏提供）

（第四百九十四部山口氏提供）

（第四百九十五部山口氏提供）

（第四百九十六部山口氏提供）

（第四百九十七部山口氏提供）

（第四百九十八部山口氏提供）

（第四百九十九部山口氏提供）

（第五百部山口氏提供）

（第五百一部山口氏提供）

（第五百二部山口氏提供）

（第五百三部山口氏提供）

（第五百四部山口氏提供）

（第五百五部山口氏提供）

（第五百六部山口氏提供）

（第五百七部山口氏提供）

（第五百八部山口氏提供）

（第五百九部山口氏提供）

（第五百十部山口氏提供）

（第五百十一部山口氏提供）

（第五百十二部山口氏提供）

（第五百十三部山口氏提供）

（第五百十四部山口氏提供）

（第五百十五部山口氏提供）

（第五百十六部山口氏提供）

（第五百十七部山口氏提供）

（第五百十八部山口氏提供）

（第五百十九部山口氏提供）

（第五百二十部山口氏提供）

（第五百二十一部山口氏提供）

（第五百二十二部山口氏提供）

（第五百二十三部山口氏提供）

（第五百二十四部山口氏提供）

（第五百二十五部山口氏提供）

（第五百二十六部山口氏提供）

（第五百二十七部山口氏提供）

（第五百二十八部山口氏提供）

（第五百二十九部山口氏提供）

（第五百三十部山口氏提供）

（第五百三十一部山口氏提供）

（第五百三十二部山口氏提供）

（第五百三十三部山口氏提供）

（第五百三十四部山口氏提供）

（第五百三十五部山口氏提供）

（第五百三十六部山口氏提供）

（第五百三十七部山口氏提供）

（第五百三十八部山口氏提供）

（第五百三十九部山口氏提供）

（第五百四十部山口氏提供）

（第五百四十一部山口氏提供）

（第五百四十二部山口氏提供）

（第五百四十三部山口氏提供）

（第五百四十四部山口氏提供）

（第五百四十五部山口氏提供）

（第五百四十六部山口氏提供）

（第五百四十七部山口氏提供）

（第五百四十八部山口氏提供）

（第五百四十九部山口氏提供）

（第五百五十部山口氏提供）

（第五百五十一部山口氏提供）

（第五百五十二部山口氏提供）

（第五百五十三部山口氏提供）

（第五百五十四部山口氏提供）

（第五百五十五部山口氏提供）

（第五百五十六部山口氏提供）

（第五百五十七部山口氏提供）

（第五百五十八部山口氏提供）

（第五百五十九部山口氏提供）

（第五百六十部山口氏提供）

（第五百六十一部山口氏提供）

（第五百六十二部山口氏提供）

（第五百六十三部山口氏提供）

（第五百六十四部山口氏提供）

（第五百六十五部山口氏提供）

（第五百六十六部山口氏提供）

（第五百六十七部山口氏提供）

（第五百六十八部山口氏提供）

（第五百六十九部山口氏提供）

（第五百七十部山口氏提供）

（第五百七十一部山口氏提供）

（第五百七十二部山口氏提供）

（第五百七十三部山口氏提供）

（第五百七十四部山口氏提供）

（第五百七十五部山口氏提供）

（第五百七十六部山口氏提供）

（第五百七十七部山口氏提供）

（第五百七十八部山口氏提供）

（第五百七十九部山口氏提供）

（第五百八十部山口氏提供）

（第五百八十一部山口氏提供）

（第五百八十二部山口氏提供）

（第五百八十三部山口氏提供）

（第五百八十四部山口氏提供）

（第五百八十五部山口氏提供）

（第五百八十六部山口氏提供）

（第五百八十七部山口氏提供）

（第五百八十八部山口氏提供）

（第五百八十九部山口氏提供）

（第五百九十部山口氏提供）

（第五百九十一部山口氏提供）

（第五百九十二部山口氏提供）

（第五百九十三部山口氏提供）

（第五百九十四部山口氏提供）

（第五百九十五部山口氏提供）

（第五百九十六部山口氏提供）

（第五百九十七部山口氏提供）

（第五百九十八部山口氏提供）

（第五百九十九部山口氏提供）

（第六百部山口氏提供）

（第六百一部山口氏提供）

（第六百二部山口氏提供）

（第六百三部山口氏提供）

（第六百四部山口氏提供）

（第六百五部山口氏提供）

（第六百六部山口氏提供）

（第六百七部山口氏提供）

（第六百八部山口氏提供）

（第六百九部山口氏提供）

（第六百十部山口氏提供）

（第六百十一部山口氏提供）

（第六百十二部山口氏提供）

（第六百十三部山口氏提供）

（第六百十四部山口氏提供）

（第六百十五部山口氏提供）

（第六百十六部山口氏提供）

（第六百十七部山口氏提供）

（第六百十八部山口氏提供）

（第六百十九部山口氏提供）

（第六百二十部山口氏提供）

（第六百二十一部山口氏提供）

（第六百二十二部山口氏提供）

（第六百二十三部山口氏提供）

（第六百二十四部山口氏提供）

（第六百二十五部山口氏提供）

（第六百二十六部山口氏提供）

（第六百二十七部山口氏提供）

（第六百二十八部山口氏提供）

（第六百二十九部山口氏提供）

（第六百三十部山口氏提供）

（第六百三十一部山口氏提供）

（第六百三十二部山口氏提供）

（第六百三十三部山口氏提供）

（第六百三十四部山口氏提供）

（第六百三十五部山口氏提供）

（第六百三十六部山口氏提供）

（第六百三十七部山口氏提供）

（第六百三十八部山口氏提供）

（第六百三十九部山口氏提供）

（第六百四十部山口氏提供）

（第六百四十一部山口氏提供）

（第六百四十二部山口氏提供）

（第六百四十三部山口氏提供）

（第六百四十四部山口氏提供）

（第六百四十五部山口氏提供）

（第六百四十六部山口氏提供）

（第六百四十七部山口氏提供）

（第六百四十八部山口氏提供）

（第六百四十九部山口氏提供）

（第六百五十部山口氏提供）

（第六百五十一部山口氏提供）

（第六百五十二部山口氏提供）

（第六百五十三部山口氏提供）

（第六百五十四部山口氏提供）

（第六百五十五部山口氏提供）

（第六百五十六部山口氏提供）

（第六百五十七部山口氏提供）

（第六百五十八部山口氏提供）

（第六百五十九部山口氏提供）

（第六百六十部山口氏提供）

（第六百六十一部山口氏提供）

（第六百六十二部山口氏提供）

（第六百六十三部山口氏提供）

（第六百六十四部山口氏提供）

（第六百六十五部山口氏提供）

（第六百六十六部山口氏提供）

（第六百六十七部山口氏提供）

（第六百六十八部山口氏提供）

（第六百六十九部山口氏提供）

（第六百七十部山口氏提供）

（第六百七十一部山口氏提供）

（第六百七十二部山口氏提供）

（第六百七十三部山口氏提供）

（第六百七十四部山口氏提供）

（第六百七十五部山口氏提供）

（第六百七十六部山口氏提供）

（第六百七十七部山口氏提供）

（第六百七十八部山口氏提供）

（第六百七十九部山口氏提供）

（第六百八十部山口氏提供）

（第六百八十一部山口氏提供）

（第六百八十二部山口氏提供）

（第六百八十三部山口氏提供）

（第六百八十四部山口氏提供）

（第六百八十五部山口氏提供）

（第六百八十六部山口氏提供）

（第六百八十七部山口氏提供）

（第六百八十八部山口氏提供）

（第六百八十九部山口氏提供）

（第六百九十部山口氏提供）

（第六百九十一部山口氏提供）

（第六百九十二部山口氏提供）

（第六百九十三部山口氏提供）

（第六百九十四部山口氏提供）

（第六百九十五部山口氏提供）

（第六百九十六部山口氏提供）

（第六百九十七部山口氏提供）

（第六百九十八部山口氏提供）

（第六百九十九部山口氏提供）

（第七百部山口氏提供）

（第七百一部山口氏提供）

（第七百二部山口氏提供）

（第七百三部山口氏提供）

（第七百四部山口氏提供）

（第七百五部山口氏提供）

（第七百六部山口氏提供）

（第七百七部山口氏提供）

（第七百八部山口氏提供）

（第七百九部山口氏提供）

（第七百十部山口氏提供）

（第七百十一部山口氏提供）

（第七百十二部山口氏提供）

（第七百十三部山口氏提供）

（第七百十四部山口氏提供）

（第七百十五部山口氏提供）

（第七百十六部山口氏提供）

（第七百十七部山口氏提供）

（第七百十八部山口氏提供）

（第七百十九部山口氏提供）

（第七百二十部山口氏提供）

（第七百二十一部山口氏提供）

（第七百二十二部山口氏提供）

（第七百二十三部山口氏提供）

（第七百二十四部山口氏提供）

（第七百二十五部山口氏提供）

（第七百二十六部山口氏提供）

（第七百二十七部山口氏提供）

（第七百二十八部山口氏提供）

（第七百二十九部山口氏提供）

（第七百三十部山口氏提供）

（第七百三十一部山口氏提供）

（第七百三十二部山口氏提供）

（第七百三十三部山口氏提供）

（第七百三十四部山口氏提供）

（第七百三十五部山口氏提供）

（第七百三十六部山口氏提供）

（第七百三十七部山口氏提供）

（第七百三十八部山口氏提供）

（第七百三十九部山口氏提供）

（第七百四十部山口氏提供）

（第七百四十一部山口氏提供）

（第七百四十二部山口氏提供）

（第七百四十三部山口氏提供）

（第七百四十四部山口氏提供）

（第七百四十五部山口氏提供）

（第七百四十六部山口氏提供）

（第七百四十七部山口氏提供）

（第七百四十八部山口氏提供）

（第七百四十九部山口氏提供）

（第七百五十部山口氏提供）

（第七百五十一部山口氏提供）

（第七百五十二部山口氏提供）

（第七百五十三部山口氏提供）

（第七百五十四部山口氏提供）

（第七百五十五部山口氏提供）

（第七百五十六部山口氏提供）

（第七百五十七部山口氏提供）

（第七百五十八部山口氏提供）

（第七百五十九部山口氏提供）

（第七百六十部山口氏提供）

（第七百六十一部山口氏提供）

（第七百六十二部山口氏提供）

（第七百六十三部山口氏提供）

（第七百六十四部山口氏提供）

（第七百六十五部山口氏提供）

（第七百六十六部山口氏提供）

（第七百六十七部山口氏提供）

（第七百六十八部山口氏提供）

（第七百六十九部山口氏提供）

（第七百七十部山口氏提供）

（第七百七十一部山口氏提供）

（第七百七十二部山口氏提供）

（第七百七十三部山口氏提供）

（第七百七十四部山口氏提供）

（第七百七十五部山口氏提供）

（第七百七十六部山口氏提供）

（第七百七十七部山口氏提供）

（第七百七十八部山口氏提供）

（第七百七十九部山口氏提供）

（第七百八十部山口氏提供）

（第七百八十一部山口氏提供）

（第七百八十二部山口氏提供）

（第七百八十三部山口氏提供）

（第七百八十四部山口氏提供）

（第七百八十五部山口氏提供）

（第七百八十六部山口氏提供）

（第七百八十七部山口氏提供）

（第七百八十八部山口氏提供）

（第七百八十九部山口氏提供）

（第七百九十部山口氏提供）

（第七百九十一部山口氏提供）

（第七百九十二部山口氏提供）

（第七百九十三部山口氏提供）

（第七百九十四部山口氏提供）

（第七百九十五部山口氏提供）

（第七百九十六部山口氏提供）

（第七百九十七部山口氏提供）

（第七百九十八部山口氏提供）

（第七百九十九部山口氏提供）

（第八百部山口氏提供）

（第八百一部山口氏提供）

（第八百二部山口氏提供）

（第八百三部山口氏提供）

（第八百四部山口氏提供）

（第八百五部山口氏提供）

（第八百六部山口氏提供）

（第八百七部山口氏提供）

（第八百八部山口氏提供）

（第八百九部山口氏提供）

（第八百十部山口氏提供）

（第八百十一部山口氏提供）

（第八百十二部山口氏提供）

（第八百十三部山口氏提供）

（第八百十四部山口氏提供）

（第八百十五部山口氏提供）

（第八百十六部山口氏提供）

（第八百十七部山口氏提供）

（第八百十八部山口氏提供）

（第八百十九部山口氏提供）

（第八百二十部山口氏提供）

（第八百二十一部山口氏提供）

（第八百二十二部山口氏提供）

（第八百二十三部山口氏提供）

（第八百二十四部山口氏提供）

（第八百二十五部山口氏提供）

（第八百二十六部山口氏提供）

（第八百二十七部山口氏提供）

（第八百二十八部山口氏提供）

（第八百二十九部山口氏提供）

（第八百三十部山口氏提供）

（第八百三十一部山口氏提供）

（第八百三十二部山口氏提供）

（第八百三十三部山口氏提供）

（第八百三十四部山口氏提供）

（第八百三十五部山口氏提供）

（第八百三十六部山口氏提供）

（第八百三十七部山口氏提供）

（第八百三十八部山口氏提供）

（第八百三十九部山口氏提供）

（第八百四十部山口氏提供）

（第八百四十一部山口氏提供）

（第八百四十二部山口氏提供）

（第八百四十三部山口氏提供）

（第八百四十四部山口氏提供）

（第八百四十五部山口氏提供）

（第八百四十六部山口氏提供）

（第八百四十七部山口氏提供）

（第八百四十八部山口氏提供）

（第八百四十九部山口氏提供）

（第八百五十部山口氏提供）

（第八百五十一部山口氏提供）

（第八百五十二部山口氏提供）

（第八百五十三部山口氏提供）

（第八百五十四部山口氏提供）

（第八百五十五部山口氏提供）

（第八百五十六部山口氏提供）

（第八百五十七部山口氏提供）

（第八百五十八部山口氏提供）

（第八百五十九部山口氏提供）

（第八百六十部山口氏提供）

（第八百六十一部山口氏提供）

（第八百六十二部山口氏提供）

（第八百六十三部山口氏提供）

（第八百六十四部山口氏提供）

（第八百六十五部山口氏提供）

（第八百六十六部山口氏提供）

（第八百六十七部山口氏提供）

（第八百六十八部山口氏提供）

（第八百六十九部山口氏提供）

（第八百七十部山口氏提供）

（第八百七十一部山口氏提供）

（第八百七十二部山口氏提供）

（第八百七十三部山口氏提供）

（第八百七十四部山口氏提供）

（第八百七十五部山口氏提供）

（第八百七十六部山口氏提供）

（第八百七十七部山口氏提供）

（第八百七十八部山口氏提供）

（第八百七十九部山口氏提供）

（第八百八十部山口氏提供）

（第八百八十一部山口氏提供）

（第八百八十二部山口氏提供）

（第八百八十三部山口氏提供）

（第八百八十四部山口氏提供）

（第八百八十五部山口氏提供）

（第八百八十六部山口氏提供）

（第八百八十七部山口氏提供）

（第八百八十八部山口氏提供）

（第八百八十九部山口氏提供）

（第八百九十部山口氏提供）

（第八百九十一部山口氏提供）

（第八百九十二部山口氏提供）

（第八百九十三部山口氏提供）

（第八百九十四部山口氏提供）

（第八百九十五部山口氏提供）

（第八百九十六部山口氏提供）

（第八百九十七部山口氏提供）

（第八百九十八部山口氏提供）

（第八百九十九部山口氏提供）

（第九百部山口氏提供）

（第九百一部山口氏提供）

（第九百二部山口氏提供）

（第九百三部山口氏提供）

（第九百四部山口氏提供）

（第九百五部山口氏提供）

（第九百六部山口氏提供）

（第九百七部山口氏提供）

（第九百八部山口氏提供）

（第九百九部山口氏提供）

（第九百十部山口氏提供）

（第九百十一部山口氏提供）

（第九百十二部山口氏提供）

（第九百十三部山口氏提供）

（第九百十四部山口氏提供）

（第九百十五部山口氏提供）

（第九百十六部山口氏提供）

（第九百十七部山口氏提供）

（第九百十八部山口氏提供）

（第九百十九部山口氏提供）

（第九百二十部山口氏提供）

（第九百二十一部山口氏提供）

（第九百二十二部山口氏提供）

（第九百二十三部山口氏提供）

（第九百二十四部山口氏提供）

（第九百二十五部山口氏提供）

（第九百二十六部山口氏提供）

（第九百二十七部山口氏提供）

（第九百二十八部山口氏提供）

（第九百二十九部山口氏提供）

（第九百三十部山口氏提供）

（第九百三十一部山口氏提供）

（第九百三十二部山口氏提供）

（第九百三十三部山口氏提供）

（第九百三十四部山口氏提供）

（第九百三十五部山口氏提供）

（第九百三十六部山口氏提供）

（第九百三十七部山口氏提供）

（第九百三十八部山口氏提供）

（第九百三十九部山口氏提供）

（第九百四十部山口氏提供）

（第九百四十一部山口氏提供）

（第九百四十二部山口氏提供）

（第九百四十三部山口氏提供）

（第九百四十四部山口氏提供）

（第九百四十五部山口氏提供）

（第九百四十六部山口氏提供）

（第九百四十七部山口氏提供）

（第九百四十八部山口氏提供）

（第九百四十九部山口氏提供）

（第九百五十部山口氏提供）

（第九百五十一部山口氏提供）

（第九百五十二部山口氏提供）

（第九百五十三部山口氏提供）

（第九百五十四部山口氏提供）

（第九百五十五部山口氏提供）

（第九百五十六部山口氏提供）

（第九百五十七部山口氏提供）

（第九百五十八部山口氏提供）

（第九百五十九部山口氏提供）

（第九百六

七師団戦記

あゝ沖縄

<129>

戦没一万八千五柱の霊にささぐ

米兵が、また二人、走ってきた。長兵上等兵は小銃で撃った。命中させる自信は全然ない。敵を倒す—そのあせりだけだ。体力も精神力も、戦闘をつづけるにたる生命力を欠き、気違いのようだ。

また一人、走ってくる。撃つ。気持ちがうわずっている。ますます、あたらない。三発目を発射しようと狙に力をこめた瞬間、背後から、こんぼうでうちのめされたような衝撃。目がくらみ、あおむけにひっくりかえった。

左手首から鮮血が泉のようにわき出る。小銃は二百ぼどさきに飛ばされている。銃を取りたいにも、眼があがらない。

敵がくる—三年兵にもなって、銃を手からはなして死んでいたら、歩兵の恥だ—はいずって行って銃を握った。残りの手りゅう弾の安全せんをぬく。敵がきたら投げてやろう—またの間がヌルヌルする手をやった。四またにひどい傷。ズボンの前のほうは穴だらけ。腰に力がはいらない。死の気配が迫ってくる。

ねえさん 助けて

死の迫った上等兵

思い浮かぶ肉親の顔

敵。戦死した戦友たちはみんな、こんな気持ちで死んでいったに違いない。

さびしい。たまらなくさびしい—

〈ねえさん、助けてくれ〉

幼くして両親を失った長兵上等兵は、姉を親がわりにして育った。いまのときに、心から姉に救いをもとめた。

生きたい。意識が、母に救いを求め、妻や子に思いをはせる気持ちが、いまわかった。

生きよう、なんとゆして生きつづけるぞ—身もだえた。要がグラッと動く。これなら歩ける—自信がわく。銃を片手に、力をこめて立ちあがった。

虫のはうような歩み。それでも歩きつづける。わずか四十㍍が、四㌔ほどにも感じられる。

迫撃砲弾が投げ込まれた頃で走ってきた。やっと、陣地にたどりついていた。

「敵は？……敵はどっちだッ」

ものがいえない。長兵上等兵は、敵のいる方向を指さすのがやっとだ。同年兵の小岡、長野上等兵が寒しげな顔でのぞきこむ。

「ッ、ッ、ッ—傷は、苦しいか…」

二人に肩ついた軍装を剥きかえた。ところへ運びこんだ。すぐ応急の傷を調べ手当てをする。ひどい傷だ。血がとまらない。どちらからともなくしゃくりあげ、遂に二人とも、声をはりあげて泣きさけした。

〈このままでは長兵は死ぬ。しかし、自殺だけはふせいでやろう〉

二人は、小銃、タマ、手りゅう弾をとりあげ、

「死ぬなよ」「死ぬなッ」

なかば失神状態の耳元に口をつけ、祈りをこめて叫んだ。

× × ×

この夜おそく、長兵上等兵は後送された。残った小岡、長野上等兵はじめ木口中隊長以下三十数人は、全員戦死するまでこを一歩も後退しなかった。

× × ×

四月二日、三日の戦死者。

岩崎軍曹（手榴）川村武夫上等兵（陸砲）荒井上等兵（長万部）世沼兵三一等兵（北海道）戸沢正男伍長（長万部・古足に田米男上等兵、高橋光男一等兵、中井勇一等兵。

『七師団戦記・ノモンハンの死闘』の手紙出版を受け付け中ヒナ。

戦記係から

山兵団最期の陣地・島尻郡字江城の天然こうはひかしからの水くみ場。水筒を手つめる少年のスリルにとんだ毎日になっていた

[illegible]をうけ、歩行困難となり、手ぬぐいで首をくくって自決。

自戒中大尉一等兵（長野）上山一郎軍曹が出撃前林木明上位下北長兵が出撃前林木明上位・軍曹）

[illegible]山[illegible]二郎軍曹の母へ[illegible]（孔[illegible]市[illegible]正男上等兵、大分上等兵、[illegible]

七師団戦記

あゝ沖縄

<130>

戦没一万八千五百柱の霊にささぐ

霊魂守る現地の人

遺骨を集めて葬る

八月十五日午前十時から、北海道自治会館（札幌市北四西二）で北海道出身沖縄戦没戦没者慰霊祭が行なう。その日が近づいた。当日は、関係者全員のご参列をお願い致します。

霊魂はあるか、ないか―記者自身は、その存在を実証するにたる人格に欠けているが、霊魂は存在するという信念にもとづいて沖縄で現地取材し、この戦記を背景のご協力により書きすすめている。

琉球放送の真栄城放送課長から二月二十五日の『明の防衛』（十五分間）で、何か話をするようにいわれた。沖縄にたいし、何の功績もない私が、名士のとりあつかいをうけるべきではない。辞退しようと思った。戦死した友人、戦友のことが胸にうかんだ。先方から再かけられたのだ、いまや反省の時期ではない、行動を要請されたのだ、さがるべきでないと考え、課長との対談にのぞんだ。

「清水さんは、北海道の七師団戦記、ある沖縄政村のためこちらへこられて、約十日間、戦跡地をおまわりになられて、どんな印象をもたれましたか？」

私は、まず、沖縄全島の背景に、あいさつがしたかった。

『沖縄の背景には、北海道の山部隊が、戦前から戦後にかけて、いろいろお世話をいただき心からお礼を申しあげます』

北海道出身者が兵隊として親切にされたこと、いま、みたまとしてまつられていることにお礼をのべた。課長は、私の感謝の念を、聴衆にはっきり理解させようとして、第二の質問を強化する問いをつづけた。私は、それに対し、つぎのように答えた。

『沖縄は、守礼の国と聞いてきましたが、なるほど、どんなにいなかへ行っても、みなさんが礼儀正しく、親切の気持ちをこめて、ねんごろに歓待してくださることに感謝しております。この礼儀の正しさは、先祖をはじめ、戦死者に対しても同様で

して、各村々のひとびとが、遺骨を集め、納骨堂や墓地で葬儀

のめい福を祈っておられるのをたくさん見ました。守礼の国は同時に霊魂を守る守護の国でもあるという印象を強くしました。

最近は、他府県からショッピ

六月九日、沖縄へきった人々の花とメッセージ（知事七師会会長、遺族援護会代表幹事社長）は北霊碑にささげられた

思うことのべた。対談が終わりころになって、真栄城課長は『ところで、北海道と沖縄のかけ橋になってください』といった。無力な私には、不可能なことだ。ただが、ここに眠る遺族子とは、むすびつきを深くすることは、できると思い「はい」と答えた。

「遺族代表をとて、はれがましい席子で、ご遺族のみなさまに顔をあわせる気持ちには、とてもなれないのです。そっと、会場の一隅から、おまいりさせていただきます」

こうきって顔をよせる病身の西田列子さん（札幌市五西十一）

山三四七四部隊長吉田勝中佐未亡人

一瞬、涙ぐれの音をたてて降ってきて、戦死者が遺族によせた遺品は、最後の軍事郵便

よせた遺品は、最後の軍事郵便手紙の数々を見せてもらった。

そのすべてが、祖国の繁栄と、一家団欒の幸福に祈りをこめて書きつづられてあった。

南海の小島に眠りつづける戦没者たちの祈りのなかに、こう

その時、みずからわるまもに

死者たちの祈りのなかに、こう

霊魂代表は北霊碑にささげられた

「七師団戦記・ノモンハンの死闘」の子約出版を受け付け中ゼナ。

戦記から

戦手　山部三四七部隊下真一郎軍長の母ハルさん（札幌市・聞）

七師団戦記

あゝ沖縄

<131>

戦没一万八千五柱の霊にささぐ

霊の存在

おふくろの顔を見たせ

兵長、故郷の夢を？

ふしぎなことがあった――と真鍋（あやめ）正義伍長（三石町本桐、山・四七四連隊）天保指揮班）から手紙がよせられている。

兵隊さんや神秘主義者は、色白で以られるので、真鍋さんのために二行する。本町であやめ酒店を経営する、おとなしいまじめな人（広島村・田中松太郎さんの弟）で、記憶もお会いしたが、自分の故郷を人に強制するようなこともなく、人格円満な紳士である。

手記によれば、四月十日、宇栄田を出発し豆野大隊が十二日未明、勝原陣地に到着したそのときのことである。

石兵団の第一線陣地は、勝原からさらに北へ一千米ほどのところにあった。陣地は戦死者がいなかったとはいえ、宇栄田から勝原まで十キロを行ぜしみんなが残っていた。陣地兵隊は、本夜の子定である。それまで、ひとねむりしようと、名月、陣地中をさがして横になった。勝原陣地は、戦場とは思えないほど静かだった。真鍋伍長は、ぐっすり眠った。

日がさめたのは、午前六時半ごろ、石兵団の守備する第一線陣地

七師団戦記

あゝ沖縄

<132>

戦没一万八十五柱の霊にささぐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

七師団戦記

あゝ沖縄

<133>

戦没一万八十五柱の魂にささぐ

あすは盂蘭盆だ。稚内市沼川の柳沼光治さんから三百円同封の手紙がきた。

「毎日、新聞を見て泣いています。沖縄戦没者の法要を営んでくださるとも、厚く厚くお礼を申しあげます。ご繁雑いたしたいのはやまやまですが、病気のため残念です。心ばかりの供養代を同封いたしましたので、なにとぞよろしくお願いいたします」

霊の帰郷

柳沼さんのどういう関係のかたが沖縄で戦死されたのか、名前も、部隊名も、戦死場所も月日もわからない。高橋さんも、次のような体験をしている。

十八年前、黒松内駅で下車、遺族宅で世話をうけていた。駅前に病院（名前を記憶していない）があり、そこのひすとさんも沖縄で戦死したので、ぜひ、おいで願いたいといわれて高橋さんが訪問した。

突然、診断室で爆発音

身の変事の知らせか

話を聞くと、山三四七四部隊第三大隊の軍医将校ということがわかった。が、高橋さんの知らない人であった。

父親は

「戦死公報では、五月十日ごろ戦死となっていますが、私どもでは、五月四日を戦死の日としております」

その理由を次のように話してくれた。

二十年五月四日の朝八時ごろ家族が居間に集まり、朝食をとっていた。突然、診断室で大きな爆発音がした。行ってみたところ、医務伍長ダナのトのびんが床に落ち、こなごなになってこわれていた。

花びんには、妹さんがさくらの花を生けてあったといい、診断室から居間までは十メートルくらいはなれていた。どうして、落ちる はずのない花びんが落ちたのか、また、花びんが落ちたらいで、あんな大きな音をたてるのもおかしい―きっと、沖縄で戦っているむすこが、身の変事を知らせたものに違いない―ということになった。

このことを、さくらを生けた妹さんが気にして、くわしく日記につけてあった。

高橋さんは、五月三日の夜から四日にかけては、日本軍が総攻撃を行ない、敵陣に猛烈な総攻撃を展開したが、米軍の逆反撃をうけ、全滅に近いうきめにあった日―として、この日を記憶していた。それが、お医者さん一家では、花びんが落ち、むごたらしい戦死をあらわしているとも、う。

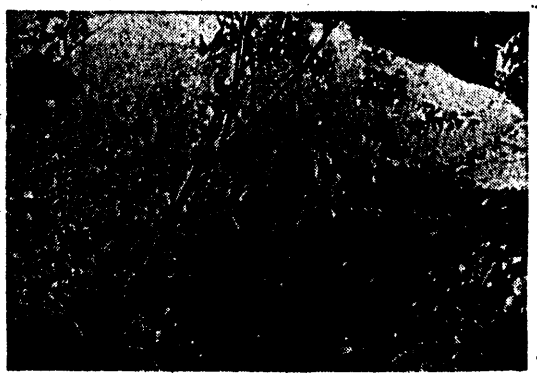
高橋さんが遺族宅をめぐり歩いたのは、戦死を確認している三千数人についてだったが、列車運行の当時、ふし遂にギップが手にはいり、現ず家もすぐ見つかって、気味がわるいようだった―という。

遺族宅では、行くさきさきでかけぜんのちゃわんが、さげるときわれていたことが、仏様のかわが、ひとりでに割ったりなどという話を聞いた。こんなことは、普通には、ありえないことだ。五感以外の第六の知覚で、相手の思っていることを知ることと、精神感応作用をレベンーといっているが、高橋さんも

「沖縄で戦っていた兵隊が、眼をひらくとき、あるいは、心からの祈りをさきけよ。ぜひ、一度、沖縄へ帰っていたのではないでしょうか？」

と言いている。あなたの部隊名、山三四七五部隊、第一部長の佐ヘルさん（札幌市国民）で、戦没の沖縄戦没者共通遺骨に、ぜひ、ご冥福をお祈りしたいとのことです。

（毎日新聞・山田一郎）



真鶴部落の、もと海兵隊地には、大きい骨にほどされた白骨が、十九年間、そのままになっていた。手で墓の下の土を掘り、収納したときの記念撮影

聞き取りから

八月十五日午後一時から北海道護国神社（札幌市北

[illegible]ることのできない英霊にむかって、かあさーん…と叫んだその声が、魂となって…

[illegible]

[illegible]

[illegible]

七師団戦記

あゝ沖縄

<134>

戦没一万八十五柱の霊にささぐ

総攻撃計画

米軍背後に逆上陸

たのみは空軍の支援

五月一日、首里の第三十二軍司令部は作戦会議を開き、山兵団（第二十四師団・国頭守備隊中将以下約二万）を主力として、五月四日午前五時を期し、総攻撃を行なうことを決めた。

その攻撃計画によれば、山兵団は三個連隊を第一線にならべて前進する。山三四七六部隊（歩兵第八十九連隊・鹿州では七八〇部隊、部隊長北山均大佐）、部隊は歩兵第二十七連隊、おもに札幌連隊区出身者で編成されていた）は、第一線の右翼（東海岸側）となり、午前五時に米軍（第七師団）の正面を突破、日没までに国道一号線付近の高地に前進することを。

山三四七四部隊（歩兵第二十二連隊・鹿州では八八〇部隊、部隊長田崎中佐、部隊は歩兵第二十六連隊、おもに熊本連隊区出身者で編成されていた）は、第一線の中央・鹿州お上び第地部隊は歩兵第二十八連隊、おもに福川、仙台連隊区出身者で編成されていた）は、第一線の左翼（西海岸側）となり、西田部落南東地区の米軍（第七十七師団）の戦線を奪取し、夕刻までに仲原部落西方の前進地を占領する。

第二十七戦車連隊は、米軍第七十七師団の戦線を突破し、第七師団の戦線を突破し、第地部落西方に進出して、山七五、山七四両部隊の攻撃を支援する。

独立混成第四十四旅団（独立第十二旅団・長・鈴木繁少将）は、五月一日、首里の北西地区へ移動、第二十四師団の右翼に展開、同師団の攻撃を支援する。

山三四七五部隊（歩兵第二十二連隊の攻撃にたいして進撃、つぎに第二十六連隊・鹿州では八〇三部隊、部隊長北郷格郎大佐、部隊は歩兵第二十七連隊、おもに札幌連隊区出身者で編成されていた）は、第一線の左翼（西海岸側）となり、西田部落南東地区の米軍（第七十七師団）の戦線を奪取し、夕刻までに仲原部落西方の前進地を占領する。

第二十七戦車連隊は、米軍第七十

七師団戦記

あゝ沖縄

<135>

戦没一万八千五柱の霊にささぐ

生き残った特攻隊員

軍人の最期に悔い

今や英霊に深く謝罪

元第一航空師団二十六戦隊第二中隊付佐々野正雄少尉（長崎県南松浦郡福江町一番町二四八）から編笠博さん（上川郡東旭川村字南田）にあてた約二十二年六月二十一日付の手紙から「沖縄の特攻隊」の動向をさぐってみよう。一、昭和十九年十一月一日、見習士官を卒業と同時に、将校十五人、下士官九十人、そして第二十六戦隊、別名三千一隊と称する第二九七六戦隊、第二十六戦隊、自隊を編成、森定一射撃をうける。

一、四月一日、米軍は沖縄に上陸。米軍は上陸後、飛行場を建設した。当時森定伍長は第一航空師団、十二月十四日、仲城上陸地を構成した。当時森定伍長は佐々野小隊に配属になった。

一、同年十一月十日、宇品港の南方約三キロの西岸・名護（なごすん）部落の中隊の駐屯地で作戦準備に励んでいた。

一、二十年三月十三日から三十一日にわたり、空襲と艦砲射撃をうける。

一、四月一日、米軍は沖縄に上陸。米軍は上陸後、飛行場を建設

七師団戦記

あゝ沖縄

<136>

戦没一万八千五柱の霊にささぐ

海の特攻隊

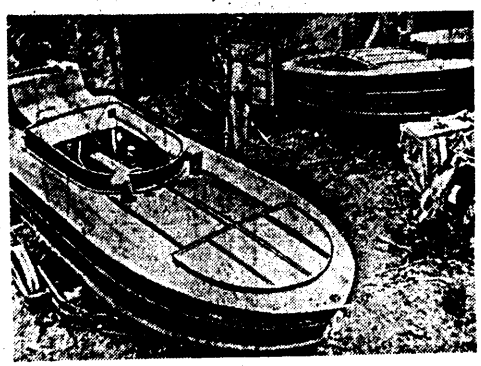
海上特攻隊に所属した小樽市信香町一ノ七の陸原春雄さんから「逆上陸を敢行して、一番早く全滅のうきめにあいました」と書いた手紙がきている。戦記として、ここに発表されるべき部分なのだが、部隊が省略されているのでほかの資料で補足しながら書き進める。

十九年三月末、満州東安の八八部隊（山三四七四部隊）から約六十人、東安周辺の他部隊からも多数の転属者があって、一団は満州牡丹江に集結。

四月上旬、和歌山県の晩部隊（和歌山船舶工兵第九連隊）で三カ月間船舶工兵の教育をうけ、七月上旬、晩一六七四四部隊を編成した。

（船舶工兵第二十六連隊・部少佐、第二中隊長前田宗治少佐は、戦後・衆議院議員・部少佐、副官石、[illegible]）

密雄少尉、第二中隊長野中尉、第三中隊長斉藤栄三郎隊（長・森田四郎少尉）に所属大尉、第一中隊長



慶良間列島で米軍に占領された海上挺身隊の特攻ボート

摩原さんは第二中隊の第四小隊に配属された。

五月中旬以降、戦存者は沖縄攻撃隊、別名、海上挺身（通称）隊を新設した。これが陸軍の「海の特攻隊」である。

第二十三師団の第一、第二、第三、第四、第五、第六、第七、第八、第九、第十、第十一、第十二、第十三、第十四、第十五、第十六、第十七、第十八、第十九、第二十、第二十一、第二十二、第二十三、第二十四、第二十五、第二十六、第二十七、第二十八、第二十九、第三十、第三十一、第三十二、第三十三、第三十四、第三十五、第三十六、第三十七、第三十八、第三十九、第四十、第四十一、第四十二、第四十三、第四十四、第四十五、第四十六、第四十七、第四十八、第四十九、第五十、第五十一、第五十二、第五十三、第五十四、第五十五、第五十六、第五十七、第五十八、第五十九、第六十、第六十一、第六十二、第六十三、第六十四、第六十五、第六十六、第六十七、第六十八、第六十九、第七十、第七十一、第七十二、第七十三、第七十四、第七十五、第七十六、第七十七、第七十八、第七十九、第八十、第八十一、第八十二、第八十三、第八十四、第八十五、第八十六、第八十七、第八十八、第八十九、第九十、第九十一、第九十二、第九十三、第九十四、第九十五、第九十六、第九十七、第九十八、第九十九、第百、第百一、第百二、第百三、第百四、第百五、第百六、第百七、第百八、第百九、第百十、第百十一、第百十二、第百十三、第百十四、第百十五、第百十六、第百十七、第百十八、第百十九、第百二十、第百二十一、第百二十二、第百二十三、第百二十四、第百二十五、第百二十六、第百二十七、第百二十八、第百二十九、第百三十、第百三十一、第百三十二、第百三十三、第百三十四、第百三十五、第百三十六、第百三十七、第百三十八、第百三十九、第百四十、第百四十一、第百四十二、第百四十三、第百四十四、第百四十五、第百四十六、第百四十七、第百四十八、第百四十九、第百五十、第百五十一、第百五十二、第百五十三、第百五十四、第百五十五、第百五十六、第百五十七、第百五十八、第百五十九、第百六十、第百六十一、第百六十二、第百六十三、第百六十四、第百六十五、第百六十六、第百六十七、第百六十八、第百六十九、第百七十、第百七十一、第百七十二、第百七十三、第百七十四、第百七十五、第百七十六、第百七十七、第百七十八、第百七十九、第百八十、第百八十一、第百八十二、第百八十三、第百八十四、第百八十五、第百八十六、第百八十七、第百八十八、第百八十九、第百九十、第百九十一、第百九十二、第百九十三、第百九十四、第百九十五、第百九十六、第百九十七、第百九十八、第百九十九、第二百、第二百一、第二百二、第二百三、第二百四、第二百五、第二百六、第二百七、第二百八、第二百九、第二百十、第二百十一、第二百十二、第二百十三、第二百十四、第二百十五、第二百十六、第二百十七、第二百十八、第二百十九、第二百二十、第二百二十一、第二百二十二、第二百二十三、第二百二十四、第二百二十五、第二百二十六、第二百二十七、第二百二十八、第二百二十九、第二百三十、第二百三十一、第二百三十二、第二百三十三、第二百三十四、第二百三十五、第二百三十六、第二百三十七、第二百三十八、第二百三十九、第二百四十、第二百四十一、第二百四十二、第二百四十三、第二百四十四、第二百四十五、第二百四十六、第二百四十七、第二百四十八、第二百四十九、第二百五十、第二百五十一、第二百五十二、第二百五十三、第二百五十四、第二百五十五、第二百五十六、第二百五十七、第二百五十八、第二百五十九、第二百六十、第二百六十一、第二百六十二、第二百六十三、第二百六十四、第二百六十五、第二百六十六、第二百六十七、第二百六十八、第二百六十九、第二百七十、第二百七十一、第二百七十二、第二百七十三、第二百七十四、第二百七十五、第二百七十六、第二百七十七、第二百七十八、第二百七十九、第二百八十、第二百八十一、第二百八十二、第二百八十三、第二百八十四、第二百八十五、第二百八十六、第二百八十七、第二百八十八、第二百八十九、第二百九十、第二百九十一、第二百九十二、第二百九十三、第二百九十四、第二百九十五、第二百九十六、第二百九十七、第二百九十八、第二百九十九、第三百、第三百一、第三百二、第三百三、第三百四、第三百五、第三百六、第三百七、第三百八、第三百九、第三百十、第三百十一、第三百十二、第三百十三、第三百十四、第三百十五、第三百十六、第三百十七、第三百十八、第三百十九、第三百二十、第三百二十一、第三百二十二、第三百二十三、第三百二十四、第三百二十五、第三百二十六、第三百二十七、第三百二十八、第三百二十九、第三百三十、第三百三十一、第三百三十二、第三百三十三、第三百三十四、第三百三十五、第三百三十六、第三百三十七、第三百三十八、第三百三十九、第三百四十、第三百四十一、第三百四十二、第三百四十三、第三百四十四、第三百四十五、第三百四十六、第三百四十七、第三百四十八、第三百四十九、第三百五十、第三百五十一、第三百五十二、第三百五十三、第三百五十四、第三百五十五、第三百五十六、第三百五十七、第三百五十八、第三百五十九、第三百六十、第三百六十一、第三百六十二、第三百六十三、第三百六十四、第三百六十五、第三百六十六、第三百六十七、第三百六十八、第三百六十九、第三百七十、第三百七十一、第三百七十二、第三百七十三、第三百七十四、第三百七十五、第三百七十六、第三百七十七、第三百七十八、第三百七十九、第三百八十、第三百八十一、第三百八十二、第三百八十三、第三百八十四、第三百八十五、第三百八十六、第三百八十七、第三百八十八、第三百八十九、第三百九十、第三百九十一、第三百九十二、第三百九十三、第三百九十四、第三百九十五、第三百九十六、第三百九十七、第三百九十八、第三百九十九、第四百、第四百一、第四百二、第四百三、第四百四、第四百五、第四百六、第四百七、第四百八、第四百九、第四百十、第四百十一、第四百十二、第四百十三、第四百十四、第四百十五、第四百十六、第四百十七、第四百十八、第四百十九、第四百二十、第四百二十一、第四百二十二、第四百二十三、第四百二十四、第四百二十五、第四百二十六、第四百二十七、第四百二十八、第四百二十九、第四百三十、第四百三十一、第四百三十二、第四百三十三、第四百三十四、第四百三十五、第四百三十六、第四百三十七、第四百三十八、第四百三十九、第四百四十、第四百四十一、第四百四十二、第四百四十三、第四百四十四、第四百四十五、第四百四十六、第四百四十七、第四百四十八、第四百四十九、第四百五十、第四百五十一、第四百五十二、第四百五十三、第四百五十四、第四百五十五、第四百五十六、第四百五十七、第四百五十八、第四百五十九、第四百六十、第四百六十一、第四百六十二、第四百六十三、第四百六十四、第四百六十五、第四百六十六、第四百六十七、第四百六十八、第四百六十九、第四百七十、第四百七十一、第四百七十二、第四百七十三、第四百七十四、第四百七十五、第四百七十六、第四百七十七、第四百七十八、第四百七十九、第四百八十、第四百八十一、第四百八十二、第四百八十三、第四百八十四、第四百八十五、第四百八十六、第四百八十七、第四百八十八、第四百八十九、第四百九十、第四百九十一、第四百九十二、第四百九十三、第四百九十四、第四百九十五、第四百九十六、第四百九十七、第四百九十八、第四百九十九、第五百、第五百一、第五百二、第五百三、第五百四、第五百五、第五百六、第五百七、第五百八、第五百九、第五百十、第五百十一、第五百十二、第五百十三、第五百十四、第五百十五、第五百十六、第五百十七、第五百十八、第五百十九、第五百二十、第五百二十一、第五百二十二、第五百二十三、第五百二十四、第五百二十五、第五百二十六、第五百二十七、第五百二十八、第五百二十九、第五百三十、第五百三十一、第五百三十二、第五百三十三、第五百三十四、第五百三十五、第五百三十六、第五百三十七、第五百三十八、第五百三十九、第五百四十、第五百四十一、第五百四十二、第五百四十三、第五百四十四、第五百四十五、第五百四十六、第五百四十七、第五百四十八、第五百四十九、第五百五十、第五百五十一、第五百五十二、第五百五十三、第五百五十四、第五百五十五、第五百五十六、第五百五十七、第五百五十八、第五百五十九、第五百六十、第五百六十一、第五百六十二、第五百六十三、第五百六十四、第五百六十五、第五百六十六、第五百六十七、第五百六十八、第五百六十九、第五百七十、第五百七十一、第五百七十二、第五百七十三、第五百七十四、第五百七十五、第五百七十六、第五百七十七、第五百七十八、第五百七十九、第五百八十、第五百八十一、第五百八十二、第五百八十三、第五百八十四、第五百八十五、第五百八十六、第五百八十七、第五百八十八、第五百八十九、第五百九十、第五百九十一、第五百九十二、第五百九十三、第五百九十四、第五百九十五、第五百九十六、第五百九十七、第五百九十八、第五百九十九、第六百、第六百一、第六百二、第六百三、第六百四、第六百五、第六百六、第六百七、第六百八、第六百九、第六百十、第六百十一、第六百十二、第六百十三、第六百十四、第六百十五、第六百十六、第六百十七、第六百十八、第六百十九、第六百二十、第六百二十一、第六百二十二、第六百二十三、第六百二十四、第六百二十五、第六百二十六、第六百二十七、第六百二十八、第六百二十九、第六百三十、第六百三十一、第六百三十二、第六百三十三、第六百三十四、第六百三十五、第六百三十六、第六百三十七、第六百三十八、第六百三十九、第六百四十、第六百四十一、第六百四十二、第六百四十三、第六百四十四、第六百四十五、第六百四十六、第六百四十七、第六百四十八、第六百四十九、第六百五十、第六百五十一、第六百五十二、第六百五十三、第六百五十四、第六百五十五、第六百五十六、第六百五十七、第六百五十八、第六百五十九、第六百六十、第六百六十一、第六百六十二、第六百六十三、第六百六十四、第六百六十五、第六百六十六、第六百六十七、第六百六十八、第六百六十九、第六百七十、第六百七十一、第六百七十二、第六百七十三、第六百七十四、第六百七十五、第六百七十六、第六百七十七、第六百七十八、第六百七十九、第六百八十、第六百八十一、第六百八十二、第六百八十三、第六百八十四、第六百八十五、第六百八十六、第六百八十七、第六百八十八、第六百八十九、第六百九十、第六百九十一、第六百九十二、第六百九十三、第六百九十四、第六百九十五、第六百九十六、第六百九十七、第六百九十八、第六百九十九、第七百、第七百一、第七百二、第七百三、第七百四、第七百五、第七百六、第七百七、第七百八、第七百九、第七百十、第七百十一、第七百十二、第七百十三、第七百十四、第七百十五、第七百十六、第七百十七、第七百十八、第七百十九、第七百二十、第七百二十一、第七百二十二、第七百二十三、第七百二十四、第七百二十五、第七百二十六、第七百二十七、第七百二十八、第七百二十九、第七百三十、第七百三十一、第七百三十二、第七百三十三、第七百三十四、第七百三十五、第七百三十六、第七百三十七、第七百三十八、第七百三十九、第七百四十、第七百四十一、第七百四十二、第七百四十三、第七百四十四、第七百四十五、第七百四十六、第七百四十七、第七百四十八、第七百四十九、第七百五十、第七百五十一、第七百五十二、第七百五十三、第七百五十四、第七百五十五、第七百五十六、第七百五十七、第七百五十八、第七百五十九、第七百六十、第七百六十一、第七百六十二、第七百六十三、第七百六十四、第七百六十五、第七百六十六、第七百六十七、第七百六十八、第七百六十九、第七百七十、第七百七十一、第七百七十二、第七百七十三、第七百七十四、第七百七十五、第七百七十六、第七百七十七、第七百七十八、第七百七十九、第七百八十、第七百八十一、第七百八十二、第七百八十三、第七百八十四、第七百八十五、第七百八十六、第七百八十七、第七百八十八、第七百八十九、第七百九十、第七百九十一、第七百九十二、第七百九十三、第七百九十四、第七百九十五、第七百九十六、第七百九十七、第七百九十八、第七百九十九、第八百、第八百一、第八百二、第八百三、第八百四、第八百五、第八百六、第八百七、第八百八、第八百九、第八百十、第八百十一、第八百十二、第八百十三、第八百十四、第八百十五、第八百十六、第八百十七、第八百十八、第八百十九、第八百二十、第八百二十一、第八百二十二、第八百二十三、第八百二十四、第八百二十五、第八百二十六、第八百二十七、第八百二十八、第八百二十九、第八百三十、第八百三十一、第八百三十二、第八百三十三、第八百三十四、第八百三十五、第八百三十六、第八百三十七、第八百三十八、第八百三十九、第八百四十、第八百四十一、第八百四十二、第八百四十三、第八百四十四、第八百四十五、第八百四十六、第八百四十七、第八百四十八、第八百四十九、第八百五十、第八百五十一、第八百五十二、第八百五十三、第八百五十四、第八百五十五、第八百五十六、第八百五十七、第八百五十八、第八百五十九、第八百六十、第八百六十一、第八百六十二、第八百六十三、第八百六十四、第八百六十五、第八百六十六、第八百六十七、第八百六十八、第八百六十九、第八百七十、第八百七十一、第八百七十二、第八百七十三、第八百七十四、第八百七十五、第八百七十六、第八百七十七、第八百七十八、第八百七十九、第八百八十、第八百八十一、第八百八十二、第八百八十三、第八百八十四、第八百八十五、第八百八十六、第八百八十七、第八百八十八、第八百八十九、第八百九十、第八百九十一、第八百九十二、第八百九十三、第八百九十四、第八百九十五、第八百九十六、第八百九十七、第八百九十八、第八百九十九、第九百、第九百一、第九百二、第九百三、第九百四、第九百五、第九百六、第九百七、第九百八、第九百九、第九百十、第九百十一、第九百十二、第九百十三、第九百十四、第九百十五、第九百十六、第九百十七、第九百十八、第九百十九、第九百二十、第九百二十一、第九百二十二、第九百二十三、第九百二十四、第九百二十五、第九百二十六、第九百二十七、第九百二十八、第九百二十九、第九百三十、第九百三十一、第九百三十二、第九百三十三、第九百三十四、第九百三十五、第九百三十六、第九百三十七、第九百三十八、第九百三十九、第九百四十、第九百四十一、第九百四十二、第九百四十三、第九百四十四、第九百四十五、第九百四十六、第九百四十七、第九百四十八、第九百四十九、第九百五十、第九百五十一、第九百五十二、第九百五十三、第九百五十四、第九百五十五、第九百五十六、第九百五十七、第九百五十八、第九百五十九、第九百六十、第九百六十一、第九百六十二、第九百六十三、第九百六十四、第九百六十五、第九百六十六、第九百六十七、第九百六十八、第九百六十九、第九百七十、第九百七十一、第九百七十二、第九百七十三、第九百七十四、第九百七十五、第九百七十六、第九百七十七、第九百七十八、第九百七十九、第九百八十、第九百八十一、第九百八十二、第九百八十三、第九百八十四、第九百八十五、第九百八十六、第九百八十七、第九百八十八、第九百八十九、第九百九十、第九百九十一、第九百九十二、第九百九十三、第九百九十四、第九百九十五、第九百九十六、第九百九十七、第九百九十八、第九百九十九、第百、第百一、第百二、第百三、第百四、第百五、第百六、第百七、第百八、第百九、第百十、第百十一、第百十二、第百十三、第百十四、第百十五、第百十六、第百十七、第百十八、第百十九、第百二十、第百二十一、第百二十二、第百二十三、第百二十四、第百二十五、第百二十六、第百二十七、第百二十八、第百二十九、第百三十、第百三十一、第百三十二、第百三十三、第百三十四、第百三十五、第百三十六、第百三十七、第百三十八、第百三十九、第百四十、第百四十一、第百四十二、第百四十三、第百四十四、第百四十五、第百四十六、第百四十七、第百四十八、第百四十九、第百五十、第百五十一、第百五十二、第百五十三、第百五十四、第百五十五、第百五十六、第百五十七、第百五十八、第百五十九、第百六十、第百六十一、第百六十二、第百六十三、第百六十四、第百六十五、第百六十六、第百六十七、第百六十八、第百六十九、第百七十、第百七十一、第百七十二、第百七十三、第百七十四、第百七十五、第百七十六、第百七十七、第百七十八、第百七十九、第百八十、第百八十一、第百八十二、第百八十三、第百八十四、第百八十五、第百八十六、第百八十七、第百八十八、第百八十九、第百九十、第百九十一、第百九十二、第百九十三、第百九十四、第百九十五、第百九十六、第百九十七、第百九十八、第百九十九、第二百、第二百一、第二百二、第二百三、第二百四、第二百五、第二百六、第二百七、第二百八、第二百九、第二百十、第二百十一、第二百十二、第二百十三、第二百十四、第二百十五、第二百十六、第二百十七、第二百十八、第二百十九、第二百二十、第二百二十一、第二百二十二、第二百二十三、第二百二十四、第二百二十五、第二百二十六、第二百二十七、第二百二十八、第二百二十九、第二百三十、第二百三十一、第二百三十二、第二百三十三、第二百三十四、第二百三十五、第二百三十六、第二百三十七、第二百三十八、第二百三十九、第二百四十、第二百四十一、第二百四十二、第二百四十三、第二百四十四、第二百四十五、第二百四十六、第二百四十七、第二百四十八、第二百四十九、第二百五十、第二百五十一、第二百五十二、第二百五十三、第二百五十四、第二百五十五、第二百五十六、第二百五十七、第二百五十八、第二百五十九、第二百六十、第二百六十一、第二百六十二、第二百六十三、第二百六十四、第二百六十五、第二百六十六、第二百六十七、第二百六十八、第二百六十九、第二百七十、第二百七十一、第二百七十二、第二百七十三、第二百七十四、第二百七十五、第二百七十六、第二百七十七、第二百七十八、第二百七十九、第二百八十、第二百八十一、第二百八十二、第二百八十三、第二百八十四、第二百八十五、第二百八十六、第二百八十七、第二百八十八、第二百八十九、第二百九十、第二百九十一、第二百九十二、第二百九十三、第二百九十四、第二百九十五、第二百九十六、第二百九十七、第二百九十八、第二百九十九、第三百、第三百一、第三百二、第三百三、第三百四、第三百五、第三百六、第三百七、第三百八、第三百九、第三百十、第三百十一、第三百十二、第三百十三、第三百十四、第三百十五、第三百十六、第三百十七、第三百十八、第三百十九、第三百二十、第三百二十一、第三百二十二、第三百二十三、第三百二十四、第三百二十五、第三百二十六、第三百二十七、第三百二十八、第三百二十九、第三百三十、第三百三十一、第三百三十二、第三百三十三、第三百三十四、第三百三十五、第三百三十六、第三百三十七、第三百三十八、第三百三十九、第三百四十、第三百四十一、第三百四十二、第三百四十三、第三百四十四、第三百四十五、第三百四十六、第三百四十七、第三百四十八、第三百四十九、第三百五十、第三百五十一、第三百五十二、第三百五十三、第三百五十四、第三百五十五、第三百五十六、第三百五十七、第三百五十八、第三百五十九、第三百六十、第三百六十一、第三百六十二、第三百六十三、第三百六十四、第三百六十五、第三百六十六、第三百六十七、第三百六十八、第三百六十九、第三百七十、第三百七十一、第三百七十二、第三百七十三、第三百七十四、第三百七十五、第三百七十六、第三百七十七、第三百七十八、第三百七十九、第三百八十、第三百八十一、第三百八十二、第三百八十三、第三百八十四、第三百八十五、第三百八十六、第三百八十七、第三百八十八、第三百八十九、第三百九十、第三百九十一、第三百九十二、第三百九十三、第三百九十四、第三百九十五、第三百九十六、第三百九十七、第三百九十八、第三百九十九、第四百、第四百一、第四百二、第四百三、第四百四、第四百五、第四百六、第四百七、第四百八、第四百九、第四百十、第四百十一、第四百十二、第四百十三、第四百十四、第四百十五、第四百十六、第四百十七、第四百十八、第四百十九、第四百二十、第四百二十一、第四百二十二、第四百二十三、第四百二十四、第四百二十五、第四百二十六、第四百二十七、第四百二十八、第四百二十九、第四百三十、第四百三十一、第四百三十二、第四百三十三、第四百三十四、第四百三十五、第四百三十六、第四百三十七、第四百三十八、第四百三十九、第四百四十、第四百四十一、第四百四十二、第四百四十三、第四百四十四、第四百四十五、第四百四十六、第四百四十七、第四百四十八、第四百四十九、第四百五十、第四百五十一、第四百五十二、第四百五十三、第四百五十四、第四百五十五、第四百五十六、第四百五十七、第四百五十八、第四百五十九、第四百六十、第四百六十一、第四百六十二、第四百六十三、第四百六十四、第四百六十五、第四百六十六、第四百六十七、第四百六十八、第四百六十九、第四百七十、第四百七十一、第四百七十二、第四百七十三、第四百七十四、第四百七十五、第四百七十六、第四百七十七、第四百七十八、第四百七十九、第四百八十、第四百八十一、第四百八十二、第四百八十三、第四百八十四、第四百八十五、第四百八十六、第四百八十七、第四百八十八、第四百八十九、第四百九十、第四百九十一、第四百九十二、第四百九十三、第四百九十四、第四百九十五、第四百九十六、第四百九十七、第四百九十八、第四百九十九、第五百、第五百一、第五百二、第五百三、第五百四、第五百五、第五百六、第五百七、第五百八、第五百九、第五百十、第五百十一、第五百十二、第五百十三、第五百十四、第五百十五、第五百十六、第五百十七、第五百十八、第五百十九、第五百二十、第五百二十一、第五百二十二、第五百二十三、第五百二十四、第五百二十五、第五百二十六、第五百二十七、第五百二十八、第五百二十九、第五百三十、第五百三十一、第五百三十二、第五百三十三、第五百三十四、第五百三十五、第五百三十六、第五百三十七、第五百三十八、第五百三十九、第五百四十、第五百四十一、第五百四十二、第五百四十三、第五百四十四、第五百四十五、第五百四十六、第五百四十七、第五百四十八、第五百四十九、第五百五十、第五百五十一、第五百五十二、第五百五十三、第五百五十四、第五百五十五、第五百五十六、第五百五十七、第五百五十八、第五百五十九、第五百六十、第五百六十一、第五百六十二、第五百六十三、第五百六十四、第五百六十五、第五百六十六、第五百六十七、第五百六十八、第五百六十九、第五百七十、第五百七十一、第五百七十二、第五百七十三、第五百七十四、第五百七十五、第五百七十六、第五百七十七、第五百七十八、第五百七十九、第五百八十、第五百八十一、第五百八十二、第五百八十三、第五百八十四、第五百八十五、第五百八十六、第五百八十七、第五百八十八、第五百八十九、第五百九十、第五百九十一、第五百九十二、第五百九十三、第五百九十四、第五百九十五、第五百九十六、第五百九十七、第五百九十八、第五百九十九、第六百、第六百一、第六百二、第六百三、第六百四、第六百五、第六百六、第六百七、第六百八、第六百九、第六百十、第六百十一、第六百十二、第六百十三、第六百十四、第六百十五、第六百十六、第六百十七、第六百十八、第六百十九、第六百二十、第六百二十一、第六百二十二、第六百二十三、第六百二十四、第六百二十五、第六百二十六、第六百二十七、第六百二十八、第六百二十九、第六百三十、第六百三十一、第六百三十二、第六百三十三、第六百三十四、第六百三十五、第六百三十六、第六百三十七、第六百三十八、第六百三十九、第六百四十、第六百四十一、第六百四十二、第六百四十三、第六百四十四、第六百四十五、第六百四十六、第六百四十七、第六百四十八、第六百四十九、第六百五十、第六百五十一、第六百五十二、第六百五十三、第六百五十四、第六百五十五、第六百五十六、第六百五十七、第六百五十八、第六百五十九、第六百六十、第六百六十一、第六百六十二、第六百六十三、第六百六十四、第六百六十五、第六百六十六、第六百六十七、第六百六十八、第六百六十九、第六百七十、第六百七十一、第六百七十二、第六百七十三、第六百七十四、第六百七十五、第六百七十六、第六百七十七、第六百七十八、第六百七十九、第六百八十、第六百八十一、第六百八十二、第六百八十三、第六百八十四、第六百八十五、第六百八十六、第六百八十七、第六百八十八、第六百八十九、第六百九十、第六百九十一、第六百九十二、第六百九十三、第六百九十四、第六百九十五、第六百九十六、第六百九十七、第六百九十八、第六百九十九、第七百、第七百一、第七百二、第七百三、第七百四、第七百五、第七百六、第七百七、第七百八、第七百九、第七百十、第七百十一、第七百十二、第七百十三、第七百十四、第七百十五、第七百十六、第七百十七、第七百十八、第七百十九、第七百二十、第七百二十一、第七百二十二、第七百二十三、第七百二十四、第七百二十五、第七百二十六、第七百二十七、第七百二十八、第七百二十九、第七百三十、第七百三十一、第七百三十二、第七百三十三、第七百三十四、第七百三十五、第七百三十六、第七百三十七、第七百三十八、第七百三十九、第七百四十、第七百四十一、第七百四十二、第七百四十三、第七百四十四、第七百四十五、第七百四十六、第七百四十七、第七百四十八、第七百四十九、第七百五十、第七百五十一、第七百五十二、第七百五十三、第七百五十四、第七百五十五、第七百五十六、第七百五十七、第七百五十八、第七百五十九、第七百六十、第七百六十一、第七百六十二、第七百六十三、第七百六十四、第七百六十五、第七百六十六、第七百六十七、第七百六十八、第七百六十九、第七百七十、第七百七十一、第七百七十二、第七百七十三、第七百七十四、第七百七十五、第七百七十六、第七百七十七、第七百七十八、第七百七十九、第七百八十、第七百八十一、第七百八十二、第七百八十三、第七百八十四、第七百八十五、第七百八十六、第七百八十七、第七百八十八、第七百八十九、第七百九十、第七百九十一、第七百九十二、第七百九十三、第七百九十四、第七百九十五、第七百九十六、第七百九十七、第七百九十八、第七百九十九、第八百、第八百一、第八百二、第八百三、第八百四、第八百五、第八百六、第八百七、第八百八、第八百九、第八百十、第八百十一、第八百十二、第八百十三、第八百十四、第八百十五、第八百十六、第八百十七、第八百十八、第八百十九、第八百二十、第八百二十一、第八百二十二、第八百二十三、第八百二十四、第八百二十五、第八百二十六、第八百二十七、第八百二十八、第八百二十九、第八百三十、第八百三十一、第八百三十二、第八百三十三、第八百三十四、第八百三十五、第八百三十六、第八百三十七、第八百三十八、第八百三十九、第八百四十、第八百四十一、第八百四十二、第八百四十三、第八百四十四、第八百四十五、第八百四十六、第八百四十七、第八百四十八、第八百四十九、第八百五十、第八百五十一、第八百五十二、第八百五十三、第八百五十四、第八百五十五、第八百五十六、第八百五十七、第八百五十八、第八百五十九、第八百六十、第八百六十一、第八百六十二、第八百六十三、第八百六十四、第八百六十五、第八百六十六、第八百六十七、第八百六十八、第八百六十九、第八百七十、第八百七十一、第八百七十二、第八百七十三、第八百七十四、第八百七十五、第八百七十六、第八百七十七、第八百七十八、第八百七十九、第八百八十、第八百八十一、第八百八十二、第八百八十三、第八百八十四、第八百八十五、第八百八十六、第八百八十七、第八百八十八、第八百八十九、第八百九十、第八百九十一、第八百九十二、第八百九十三、第八百九十四、第八百九十五、第八百九十六、第八百九十七、第八百九十八、第八百九十九、第九百、第九百一、第九百二、第九百三、第九百四、第九百五、第九百六、第九百七、第九百八、第九百九、第九百十、第九百十一、第九百十二、第九百十三、第九百十四、第九百十五、第九百十六、第九百十七、第九百十八、第九百十九、第九百二十、第九百二十一、第九百二十二、第九百二十三、第九百二十四、第九百二十五、第九百二十六、第九百二十七、第九百二十八、第九百二十九、第九百三十、第九百三十一、第九百三十二、第九百三十三、第九百三十四、第九百三十五、第九百三十六、第九百三十七、第九百三十八、第九百三十九、第九百四十、第九百四十一、第九百四十二、第九百四十三、第九百四十四、第九百四十五、第九百四十六、第九百四十七、第九百四十八、第九百四十九、第九百五十、第九百五十一、第九百五十二、第九百五十三、第九百五十四、第九百五十五、第九百五十六、第九百五十七、第九百五十八、第九百五十九、第九百六十、第九百六十一、第九百六十二、第九百六十三、第九百六十四、第九百六十五、第九百六十六、第九百六十七、第九百六十八、第九百六十九、第九百七十、第九百七十一、第九百七十二、第九百七十三、第九百七十四、第九百七十五、第九百七十六、第九百七十七、第九百七十八、第九百七十九、第九百八十、第九百八十一、第九百八十二、第九百八十三、第九百八十四、第九百八十五、第九百八十六、第九百八十七、第九百八十八、第九百八十九、第九百九十、第九百九十一、第九百九十二、第九百九十三、第九百九十四、第九百九十五、第九百九十六、第九百九十七、第九百九十八、第九百九十九、第百、第百一、第百二、第百三、第百四、第百五、第百六、第百七、第百八、第百九、第百十、第百十一、第百十二、第百十三、第百十四、第百十五、第百十六、第百十七、第百十八、第百十九、第百二十、第百二十一、第百二十二、第百二十三、第百二十四、第百二十五、第百二十六、第百二十七、第百二十八、第百二十九、第百三十、第百三十一、第百三十二、第百三十三、第百三十四、第百三十五、第百三十六、第百三十七、第百三十八、第百三十九、第百四十、第百四十一、第百四十二、第百四十三、第百四十四、第百四十五、第百四十六、第百四十七、第百四十八、第百四十九、第百五十、第百五十一、第百五十二、第百五十三、第百五十四、第百五十五、第百五十六、第百五十七、第百五十八、第百五十九、第百六十、第百六十一、第百六十二、第百六十三、第百六十四、第百六十五、第百六十六、第百六十七、第百六十八、第百六十九、第百七十、第百七十一、第百七十二、第百七十三、第百七十四、第百七十五、第百七十六、第百七十七、第百七十八、第百七十九、第百八十、第百八十一、第百八十二、第百八十三、第百八十四、第百八十五、第百八十六、第百八十七、第百八十八、第百八十九、第百九十、第百九十一、第百九十二、第百九十三、第百九十四、第百九十五、第百九十六、第百九十七、第百九十八、第百九十九、第二百、第二百一、第二百二、第二百三、第二百四、第二百五、第二百六、第二百七、第二百八、第二百九、第二百十、第二百十一、第二百十二、第二百十三、第二百十四、第二百十五、第二百十六、第二百十七、第二百十八、第二百十九、第二百二十、第二百二十一、第二百二十二、第二百二十三、第二百二十四、第二百二十五、第二百二十六、第二百二十七、第二百二十八、第二百二十九、第二百三十、第二百三十一、第二百三十二、第二百三十三、第二百三十四、第二百三十五、第二百三十六、第二百三十七、第二百三十八、第二百三十九、第二百四十、第二百四十一、第二百四十二、第二百四十三、第二百四十四、第二百四十五、第二百四十六、第二百四十七、第二百四十八、第二百四十九、第二百五十、第二百五十一、第二百五十二、第二百五十三、第二百五十四、第二百五十五、第二百五十六、第二百五十七、第二百五十八、第二百五十九、第二百六十、第二百六十一、第二百六十二、第二百六十三、第二百六十四、第二百六十五、第二百六十六、第二百六十七、第二百六十八、第二百六十九、第二百七十、第二百七十一、第二百七十二、第二百七十三、第二百七十四、第二百七十五、第二百七十六、第二百七十七、第二百七十八、第二百七十九、第二百八十、第二百八十一、第二百八十二、第二百八十三、第二百八十四、第二百八十五、第二百八十六、第二百八十七、第二百八十八、第二百八十九、第二百九十、第二百九十一、第二百九十二、第二百九十三、第二百九十四、第二百九十五、第二百九十六、第二百九十七、第二百九十八、第二百九十九、第三百、第三百一、第三百二、第三百三、第三百四、第三百五、第三百六、第三百七、第三百八、第三百九、第三百十、第三百十一、第三百十二、第三百十三、第三百十四、第三百十五、第三百十六、第三百十七、第三百十八、第三百十九、第三百二十、第三百二十一、第三百二十二、第三百二十三、第三百二十四、第三百二十五、第三百二十六、第三百二十七、第三百二十八、第三百二十九、第三百三十、第三百三十一、第三百三十二、第三百三十三、第三百三十四、第三百三十五、第三百三十六、第三百三十七、第三百三十八、第三百三十九、第三百四十、第三百四十一、第三百四十二、第三百四十三、第三百四十四、第三百四十五、第三百四十六、第三百四十七、第三百四十八、第三百四十九、第三百五十、第三百五十一、第三百五十二、第三百五十三、第三百五十四、第三百五十五、第三百五十六、第三百五十七、第三百五十八、第三百五十九、第三百六十、第三百六十一、第三百六十二、第三百六十三、第三百六十四、第三百六十五、第三百六十六、第三百六十七、第三百六十八、第三百六十九、第三百七十、第三百七十一、第三百七十二、第三百七十三、第三百七十四、第三百七十五、第三百七十六、第三百七十七、第三百七十八、第三百七十九、第三百八十、第三百八十一、第三百八十二、第三百八十三、第三百八十四、第三百八十五、第三百八十六、第三百八十七、第三百八十八、第三百八十九、第三百九十、第三百九十一、第三百九十二、第三百九十三、第三百九十四、第三百九十五、第三百九十六、第三百九十七、第三百九十八、第三百九十九、第四百、第四百一、第四百二、第四百三、第四百四、第四百五、第四百六、第四百七、第四百八、第四百九、第四百十、第四百十一、第四百十二、第四百十三、第四百十四、第四百十五、第四百十六、第四百十七、第四百十八、第四百十九、第四百二十、第四百二十一、第四百二十二、第四百二十三、第四百二十四、第四百二十五、第四百二十六、第四百二十七、第四百二十八、第四百二十九、第四百三十、第四百三十一、第四百三十二、第四百三十三、第四百三十四、第四百三十五、第四百三十六、第四百三十七、第四百三十八、第四百三十九、第四百四十、第四百四十一、第四百四十二、第四百四十三、第四百四十四、第四百四十五、第四百四十六、第四百四十七、第四百四十八、第四百四十九、第四百五十、第四百五十一、第四百五十二、第四百五十三、第四百五十四、第四百五十五、第四百五十六、第四百五十七、第四百五十八、第四百五十九、第四百六十、第四百六十一、第四百六十二、第四百六十三、第四百六十四、第四百六十五、第四百六十六、第四百六十七、第四百六十八、第四百六十九、第四百七十、第四百七十一、第四百七十二、第四百七十三、第四百七十四、第四百七十五、第四百七十六、第四百七十七、第四百七十八、第四百七十九、第四百八十、第四百八十一、第四百八十二、第四百八十三、第四百八十四、第四百八十五、第四百八十六、第四百八十七、第四百八十八、第四百八十九、第四百九十、第四百九十一、第四百九十二、第四百九十三、第四百九十四、第四百九十五、第四百九十六、第四百九十七、第四百九十八、第四百九十九、第五百、第五百一、第五百二、第五百三、第五百四、第五百五、第五百六、第五百七、第五百八、第五百九、第五百十、第五百十一、第五百十二、第五百十三、第五百十四、第五百十五、第五百十六、第五百十七、第五百十八、第五百十九、第五百二十、第五百二十一、第五百二十二、第五百二十三、第五百二十四、第五百二十五、第五百二十六、第五百二十七、第五百二十八、第五百二十九、第五百三十、第五百三十一、第五百三十二、第五百三十三、第五百三十四、第五百三十五、第五百三十六、第五百三十七、第五百三十八、第五百三十九、第五百四十、第五百四十一、第五百四十二、第五百四十三、第五百四十四、第五百四十五、第五百四十六、第五百四十七、第五百四十八、第五百四十九、第五百五十、第五百五十一、第五百五十二、第五百五十三、第五百五十四、第五百五十五、第五百五十六、第五百五十七、第五百五十八、第五百五十九、第五百六十、第五百六十一、第五百六十二、第五百六十三、第五百六十四、第五百六十五、第五百六十六、第五百六十七、第五百六十八、第五百六十九、第五百七十、第五百七十一、第五百七十二、第五百七十三、第五百七十四、第五百七十五、第五百七十六、第五百七十七、第五百七十八、第五百七十九、第五百八十、第五百八十一、第五百八十二、第五百八十三、第五百八十四、第五百八十五、第五百八十六、第五百八十七、第五百八十八、第五百八十九、第五百九十、第五百九十一、第五百九十二、第五百九十三、第五百九十四、第五百九十五、第五百九十六、第五百九十七、第五百九十八、第五百九十九、第六百、第六百一、第六百二、第六百三、第六百四、第六百五、第六百六、第六百七、第六百

七師団戦記

あゝ沖縄

<137>

戦没一万八十五柱の霊にささぐ

80と81

山三四八(部隊の生還者は和田勝三(苫小牧市役所勤務・第三大隊本部)田中喜一郎(苫小牧市山の手町六四・村山隊)及川英孝(川上郡標茶町字阿歴内・原野第四、村上隊)田岡作太郎(釧路市字月浦一七、第二大隊本部)光井保正(十勝農業協同組合)角三野優(上富良野町農業協同組合)角守(沙流郡門別町)内孝(上川郡比布村字中央区五ノ二、伍隊)曽根金生(夕張市跡地一番地、第二大隊本部)馬場清(旭川市東八条二丁目、志田隊)道輪正雄(阿寒町新町、新潟隊)矢隊=連隊砲列)石塚光夫(札幌市北八東十三)阿部幸一(札幌市北二十一東一、七門隊)北川虎雄(釧路市若松町四、十門隊)河本博(沢内郡土合村所在地)、以上第二十六氏の所在が判明しているのは和田、西条、河本、加藤(函館市大縄町九八)笠松豊長(長万部)澤田弘(上川郡比布村字中央区)田中武雄(小樽市緑町三・小樽駅車掌区)伊藤清晴(旭川市三条四、村上隊)田岡作太郎(釧路市字月浦)林忠男(札幌市北三西二十八)中川清勝(沙原村)横水町(釧路)(和田隊)沙原国保病院)小塚多美雄(美唄市茶合町緑ケ丘)加藤勇(札幌市北六東八、連隊砲列)竹内常吉(札幌市白石町北七(五)本間留雄(沢内郡土合村所在地)以上第二十六氏の所在が判明しているのは和田、西条、河本、加藤、既十二月まで続くから、あうすこし、充実するのを待つことにする。

× × ×

その後、あちこちに転進、伊藤二十年三月二十三日以降、敵の砲撃射撃が激化したので、伊坂長の第一中隊はじめ、二、三中隊はそれぞれのごうにはいり、その後、あちこちに転進、伊藤の をつづけた。十月十日、敵空飛行場(北)で大砲撃をうけ、分隊長・富山安太郎曹(金沢)とあやうく爆死をまぬがれた。

十九年十二月、島尻郡南風原村字大頭部落、与座部落に転進、大陣地構築をはじめた。

伊坂長官は、小銃隊長長、中村三郎上等兵(秋田)の三人で第一伝令班を編成。第二伝令班は本村信雄曹長(秋田)、市瀬上等兵、フチヤク・ジュンフク一等兵(仙台)第三伝令班は阿部次郎長兵長、宮辺正雄伍長(函館)の三人。

四月一日、米軍が嘉手納海岸へ上陸したが、工兵部隊は戦場へ出発せずにゆうゆうと切り込み演習をしていた。練習部隊は四月、五月、六月分の給料の前払いがあって、なんとなくいい気分だったので、艦砲射撃のなかでフロにはいったり、軍歌をうたったり、大いに気勢をあげていた。

草におおわれている与座の岩山をくりぬいた堅固な地下陣地

ゆうゆうとフロに

艦砲射撃のなかで

者から砲兵隊の情報をせびられたの記、詳細は知りたい」との手紙で申し込みがきているが、資料不足で進まない。この戦記は第二十回(四月二十日付け)で戦手記をもとに、部隊行動の概況を発表したが、伊坂手記とあわせて、その詳細を書く、伊坂重市長兵は、第一中隊(長・江井全市甲八戸市)であったから沖縄上陸後、山三四七四部隊(歩兵第二十二連隊)に指揮班として配属になり、石垣、久米村近で陣地構築をやり

戦記集から

「七師団戦記・ノモンハンの死闘」の予約出版を受け付け中です。

訃報　山三四七五部隊・兵一部隊長の鈴木八九さん(札幌市・軍曹)

七師団戦記

あゝ沖縄

戦没一万八十五柱の霊にささぐ

<138>

梅沢軍曹

にじみ出る人柄

元気に切り込みの訓練

切り込み訓練は、部隊本部の太田鋼矢少尉（札幌・幹候出身）の指揮で、梅沢軍曹（札幌繊維工業・幹候）が助教で行なわれていた。梅沢軍曹は、札幌時代剣道部の選手で教官よりも技量は上であった。岡崎見習士官や下士官たち、大勢が参加し、練習風景は、まるで学生の剣道大会のような元気さにあふれ梅沢軍曹の人柄がにじみでて、指揮は親切一家であった。それというのも、開戦と同時に、第一中隊小隊長斎藤軍曹（中尉（札幌）を高地に七人編成の模範切り込み隊が中隊長の指揮を攻撃、生還一人の成績をあげていたからだ。

部隊本部の陣地は、岩石の山を掘り抜いてできている。爆弾が落ちても、内部にひびかない。そばの住民のような問題だった。さらに恵まれていたのは、食糧である。敵上陸と同時に、製糖工場から大量の黒砂糖が運び込まれた。三人に二斗だる（三十六㌔）一本が割り当てられた。ちょうの前の野天に、砂糖だるを小山のように積みあげた。また、本部は将校の机の下には、水ケメの一斗かん（十八㍑）がおいてあって、当直者は同時に、第一中隊小隊長斎藤軍曹（中尉（札幌）を高地に七人編成の模範切り込み隊が中隊長の指揮を攻撃、生還一人の成績をあげていたからだ。

部隊本部の陣地は、岩石の山を掘り抜いてできている。爆弾が落ちても、内部にひびかない。そばの住民のような問題だった。

米軍は、上陸作戦のビラを、陣地付近に問題にばらまいた。ビラには、太平洋が戦場となり29年の威力）のもと、義烈空挺隊から近い沖縄を取ろうとしています。日本軍の将校は、いまどうして逃げようかと相談をしています。だから、みなさんは日本のために戦う必要はありません〉

これにたいし、日本軍の宣伝ビラも、あちこちにばらまいた。

〈敵は遂に第一千機に上陸し来たり。隠見せ一木一草に至るまで戦うべし。軍は御親戚（みいつ）とうとうしい威光・神霊の威力）のもと、義烈空挺隊でおおわれた絵のうえに、

〈みなさん、あの艦砲射撃の音を聞いたでしょう。あれは、アメリカの兵力のほんの一部です。いまアメリカは、日本全土を焦って敵を撃滅せん 現地軍司令官〉

また、内地にたいし、こんなウワサも耳にした。

〈友軍の潜水艦十隻が沖縄に向かいつつある。敵軍の攻撃と同時に敵艦船が撃沈されるので、この戦いは、絶対に守れば、かならず勝てる〉

ほかにも聞いたーという兵隊が、たくさんいた。

糸満沖は敵艦で、いっぱいだ。夜になると、将校はじめ兵隊は母座岳台地に登り、特攻機の活躍を見るのを楽しみにしていた。

ある夜、特攻機二機が敵艦へ突っ込んで行くのを見た。対空砲火もサーチライトも上がらず、敵艦隊は油断をしていたようだ。爆弾投下・敵艦の一隻は真っ二つになって、すぐ沈没、一隻は大火災を起こし、約十分後に沈んでいった。梅沢軍曹や高野伍長らは、手をたたいて喜んだ。二機とも生還してゆく〜

「よくやった！」

見えない海軍士官に手を振り、心からの声援を送った。

また、内地攻撃の訓練用に、敵の模型を作ってあったが、米軍機は、これを本物と思いとみ、しばしば爆撃して満足を笑わせた。楽しい思い出だ。これらいのもので、あの時、とにいに敵が戦闘が十五隊のうえに迫ってきた。

【七師団戦記・ノモンハンの死闘』の手紙出版を受

砂まりかえる母島

ケガ中で。

部隊 山田一郎 十五歳 下真

【部隊長の話ヘルまん（札幌市

七師団戦記

あゝ沖縄

戦没一万八千五百柱の霊にささぐ

<139>

朝まで語り明かす

満州時代の初年兵

別れの酒宴

四月十五日ごろ、部隊長・児玉兵大佐は、一同に別れの酒を命じた。夜になって、各中隊は酒もりをはじめた。

一人平均酒肴が三合（〇・五四㍑）配給になった。平均以上の酒には、現地調達の酒肴が用意された。

高野伍長は酒を二合（〇・三六㍑）ばかりのぐいぐい気持ちになって、砲隊（兵・西村正雄軍曹・仙本）の馬鹿・笠置一等兵（金沢町大川出）を訪問した。上なりは昭和十七年、満州の初年兵で、満州での初年兵時代は戦友をともにした仲だった。笠置軍曹がと高野伍長は他ごになったと考、高野伍長は自分のことのように喜んだ。

笠置軍曹は、高野伍長の歓待をうけ、西村砲兵中尉（大分郡出）と軍曹（金沢市）の三人で朝まで語り明かすべく、酒もりあった。笠置軍曹は、一本は、小倉行場の高野伍長は、部隊の最後となりはらって、野天で寝込んでしまったのを、高野伍長は知らなかった。

朝、空腹で目をさました笠置軍曹が、あわてて部隊本部の医務室へかけ込んでゆくのを見た。

〈あいつ、そこで寝ていたのかな〉

友を放置した自分に気がつきもっと悪いことをしたと思った。だが、二日酔いの苦しそうな顔で走る友の姿に、笑いが腹からこみあげてきた。

「おい、どうした？」

伍長は医務室のそばで。

「いい気持ちで寝ていたら空襲、自分をめがけ二日酔い、往復ビンタだ！」

けんなりした笠置軍曹の顔に笑いをこらえることができなかった。

× × ×

四月二十日ごろ、那覇西方海上の神山島の米軍は、夜間、一部の部隊に撤収を命じ、住民を引揚して、百名以上の一日間の戦闘で三八人が朝まで語り明かすべく、大小約八十人を殺した。怒った日本軍は、小倉行場の高野伍長は、部隊の最後となりはらって、野天で寝込んでしまったのを、高野伍長は知らなかった。

朝、空腹で目をさました笠置軍曹が、あわてて部隊本部の医務室へかけ込んでゆくのを見た。

〈あいつ、そこで寝ていたのかな〉

友を放置した自分に気がつきもっと悪いことをしたと思った。だが、二日酔いの苦しそうな顔で走る友の姿に、笑いが腹からこみあげてきた。

「おい、どうした？」

伍長は医務室のそばで。

「いい気持ちで寝ていたら空襲、自分をめがけ二日酔い、往復ビンタだ！」

けんなりした笠置軍曹の顔に笑いをこらえることができなかった。

× × ×

四月二十六日、出撃命令。兵は、水をのませてくれ！といった。用意された約四人が軍隊の規定に従順として、ついていた。高野伍長の水筒の水、兵さんたちに与えられて水筒の取りついた。その頃には、高野伍長の顔は、

[illegible]

助からないと気付いた上官は、[illegible]

[illegible]

[illegible]

七師団戦記

あゝ沖縄

<140>

戦没一万八千五百の霊にささぐ

総攻撃開始

児玉剛光大佐は山口県出身。二カ月後の六月二十二日、金山均大佐（山三四七六部隊長）と島尻郡新垣の陣地で、軍旗を焼ののち、戦車攻撃用爆薬で自決したが、四月末ごろ、かげ口をいう者がいた。

「連隊長は、次の島に引っ込んでばかりいて、全然、外に出てこない…」

ひきょう者ばかりである。児玉大佐の声は重苦しく沈んでいた。

「私は命は惜しくないが、私が死んだら、志気が半減する。私は、みんなを死なせて、自分だけ絶対生きてはいないから、安心して陛下のため、命に従って死んでくれ」

兵隊は感激して、志気が高い立たった。

× × ×

五月四日、総攻撃開始を命ぜられ、部隊長以下少数を赤田町陣地に残し、工兵隊は前線へ出発した。

高野伍長（三笠市幌内住吉町）

発。球部隊の野砲陣地に着く。夜が明け、迫撃砲弾の数が激しくなった。全員地下陣地にとじこもる。

やがて砲撃がやんだので、各小隊から出発した。七時に、ト

赤尾曹長らが戦死

猛砲撃で前進できず

四三七は、原隊の第一中隊（長・江井金中尉・八戸）に復帰。中隊長の出発後だったので、指揮班長赤尾曹長（分隊）に同行した。

石嶺陣地につき、ひる、ここで仮眠。先発隊が、先に着いて待っていた。陣地の山は、やわらかい地質だったため、爆撃をうけて小銃兵が生き埋めになる。救出作業に加ったが、ダくれがつつき、助け出すことができなかったという。

「悪」になって、石嶺陣地を出発。前へ進まない。高野伍長は

ンボ・ボ・が飛んできた。予想どおり、砲撃がはじまる。猛烈だ。高野伍長は赤尾曹長に、いま出てきた球部隊の野砲陣地に、引き返すことを進言した。

「中隊長殿が、先に行っておられる。引き返すわけにはいかぬ。いそげ！」

赤尾曹長は、前方の山とこちらの山との谷間をかけた。敵はこの谷間を日本軍の前進コースとして監視していたようだ。前進しようとすると、猛烈な砲

撃。前へ進まない。高野伍長は重傷。高野伍長は伏せていたが左足に被片の直撃をうけた。はって行って赤尾曹長に応急手当てをする。

「中隊長殿に申しわけない。俺が悪かった。切腹する。高野ッ、刀は、おまえに形見にやる」

「切腹したら、あとはどうなりますかッ！曹長殿、気をしっかりもってください」

高野伍長は赤尾曹長を背負いほかの負傷者を助けて、まえにいた野砲陣地に引き返した。

いそいで、沖縄出身の兵隊人に担架を作らせ、曹長ら負傷者を陸軍病院に護送した。

赤尾曹長は、入院後、間もなく死んだ。その知らせと、曹長の軍刀を持って連絡兵がきた。

曹長のめい福を祈った。

戦記係から

「七師団戦記・ノモンハンの死闘」の予約出版を受け付け中です。

（大嶺部落はずれの日本軍陣地から見た遠景）

「曹長殿が高野伍長にくれぐれもよろしくと言われ、軍刀を一部曹長の母へ」

（小説）

高野伍長は涙ながら語る。

・（敬）

聖学・山田四七六部隊・真

七師団戦記

あゝ沖縄

<141>

戦況を詳細に掲載

首里の地下工場で発行

戦没一万八十五柱の霊にささぐ

高野伍長はひとりになって、一路中前線をさまよい、明け方近く石嶺の陣地にたどりついた。

前線の日本軍は、陣地に陣地にはいり、敵の砲撃にまかせている。

が、夜になると猛然と反撃を開始し、敵陣の上空は、彼我のタマが、激しくいり乱れてキモをうばわるばかりだ。

敵味方はいっぱい、

「大友軍曹三千は、英霊に敬礼を発見、これを攻撃し、多大な損害を与えた。このため航空隊の応援はないから、最前線の陸軍部隊、約三千は壊滅せよ」

命令に従って前線指揮官は決戦を下令した。

このとき、首里の地下工場から、中隊長の発行されていた山岸部隊の総攻撃を見送り、南を進めて帰った。

地獄の叫び（かぐかぐ）たる戦場。

よく晴れ、号令一下、戦車が前進するや、四十台がいっぺんに吹っ飛んだ。松山小隊長はとんとん通信なく、その武勲にたいし軍司令官から感状を授与された。配属の内容は○五月四日の総攻撃には、村松上等兵（高野伍長の同年輩）の勇戦を称小隊は、壮烈なる攻撃を敢行、一

高野伍長、新聞報道員らと一緒に渡りそこの防衛隊長西村准尉は直接強で金剛を飛ばせた。准尉の部下で高野伍長の親友、新聞報道員（余市）は、負傷をうけ、五月十五日この野戦病院で戦死した。宮藤軍曹、第三中隊の小隊長、留田英二少尉（宮見）も戦死した。

○田口伍長は、兵三人を連れ敵陣に突入、戦車三台、トラックその他車両数台を破壊、敵幕僚を含に手りゅう弾攻撃をくわえ敵砲（山口）に状況を報告、三浦正敏連隊少尉の指揮をうけた。

左近智部隊長は負傷片脚、後撤がすんでから足三部隊長に呼ばれた。

伍長は部隊長に、前線付近の状況、友軍の奮戦状況、敵軍の状態などを、聞いたことや、推察したことを全部報告した。

部隊長命令で、第五十三師団の前線出動は、高野伍長の負傷以後、無効とされた。

伍長は新聞報道員、人の報道を帰ンの沖縄ドロ号約出版を受け付

なつかしい大道へ向かった。

「七師団戦記」・ノモンハ

戦記係から

記・ノモンハ

（大軍部隊の鉄道レールが敷設されあったところ。いまは、人影は一つもない）

ぼられ、報生長二人と、負傷のため大軍部隊の陣地へ戻ることになった。

夜、伍長ら七人は、資材強奪一部屋の低ハルちん（九軍部）を積んできたトラックに乗り、

部隊長

山岸三四七五部隊長

一部屋の低ハルちん（九軍部）

新聞報道

七師団戦記

あゝ沖縄

<142>

戦没二万八十五柱の霊にささぐ

設敷雷地車戦

素手で道路を掘る

やみの中、音のせぬよう

大頭陣地に殺到した五百余人の部隊一中隊の伊坂重雄中尉（羽幌町出身）はうしたが、一部隊が出発したとき、戦闘参加って見送った戦友たちが、ほとんど全滅、工兵はまだ、一人も帰っていないとの情報が、次第の部隊にはいった。

〈タマではないか〉

「なにかの間違ではないか？」

信じられないことだった。ただ、情報は、刻々とはいって来た。どれもこれも、友軍の敗北、陣地につく、山の中腹に刻られた白兵（きゆうぼう）陣地で、「米軍も相当な被害をうけた」「進まない岩山を前の者を押しあけ、押しあげ、押しあげてのぼる。しかるのー」敵たしい何ったり、部隊がやみをきいて到着、五月八日、港に輜兵と船舶兵数人を残し、伊坂重雄中尉は、部隊へ雄壮な決心をもって出発した。闇夜のなかを、夜行軍のなかを、夜行軍をしたが、大いばり進め、前の一日編成、どれもこれも、友軍の敗北を伝えるのばかり。

「なぁーに、ぼんのすこし、やりやがった、ちくしょう…」

そういいながらも、船田上等兵は、山を登っていた。上等兵となら、んで亀田兵長（函館）が登って前線へ、船田上等兵のからだがさがってきた。

「どうしたッ？」

「ぼくは船田上等兵の足をうけとめた伊坂重雄が叫んだ。

「軍医殿、船田の足を切ってください。早くて困ります」

久野慶一軍医大尉（札幌）は無言で静かにうなずいた。間もなく、船田上等兵は、みんなに別れをつげたかのように大きく手をふり、絶叫した。

夜がしらじらと明けてくる。

伊坂重雄は、叫びながら登りつめ、こうへ船田上等兵のからだをおろした。船田上等兵は、重傷者とは思えぬ、はっきりした元気のいい声で

「早く…早くこうへ入れろ」

兵のからだは、ずるずると力なく落ちてきた。左頭と右目をやられている。兵長はそのうちがなくりすて、船田上等兵をかつぎ上げた。亀田兵長のうなり声・大きなからだをくねらせ、右腕や偽装網にひっかけてうなりつづけている。右大腿がザクロのようだ。

「早く…早くこうへ入れろ」

伊坂重雄中尉はうしたが、一部隊が出発したとき、戦闘参加って見送った戦友たちが、ほとんど全滅、工兵はまだ、一人も帰っていないとの情報が、次第の部隊にはいった。

〈タマではないか〉

「なにかの間違ではないか？」

信じられないことだった。ただ、情報は、刻々とはいって来た。どれもこれも、友軍の敗北を伝えるのばかり。

「米軍も相当な被害をうけた」「進まない岩山を前の者を押しあけ、押しあげ、押しあげてのぼる。しかるのー」敵たしい何ったり、部隊がやみをきいて到着、五月八日、港に輜兵と船舶兵数人を残し、伊坂重雄中尉は、部隊へ雄壮な決心をもって出発した。闇夜のなかを、夜行軍をしたが、大いばり進め、前の一日編成、どれもこれも、友軍の敗北を伝えるのばかり。

「米軍も相当な被害をうけた」「進まない岩山を前の者を押しあけ、押しあげ、押しあげてのぼる。しかるのー」敵たしい何ったり、部隊がやみをきいて到着、五月八日、港に輜兵と船舶兵数人を残し、伊坂重雄中尉は、部隊へ雄壮な決心をもって出発した。闇夜のなかを、夜行軍をしたが、大いばり進め、前の一日編成、どれもこれも、友軍の敗北を伝えるのばかり。

「なぁーに、ぼんのすこし、やりやがった、ちくしょう…」

そういいながらも、船田上等兵のからだは、ずるずると力なく落ちてきた。左頭と右目をやられている。兵長はそのうちがなくりすて、船田上等兵をかつぎ上げた。亀田兵長のうなり声・大きなからだをくねらせ、右腕や偽装網にひっかけてうなりつづけている。右大腿がザクロのようだ。

「早く…早くこうへ入れろ」

伊坂重雄中尉は、叫びながら登りつめ、こうへ船田上等兵のからだをおろした。船田上等兵は、重傷者とは思えぬ、はっきりした元気のいい声で

「軍医殿、船田の足を切ってください。早くて困ります」

久野慶一軍医大尉（札幌）は無言で静かにうなずいた。間もなく、船田上等兵は、みんなに別れをつげたかのように大きく手をふり、絶叫した。

夜がしらじらと明けてくる。

敵潮は休みなく打ち込まれる。戦死一人のほか、亀田兵長、斎藤一等兵、石田上等兵、赤鹿一等兵ら四人が負傷傷をうけた。

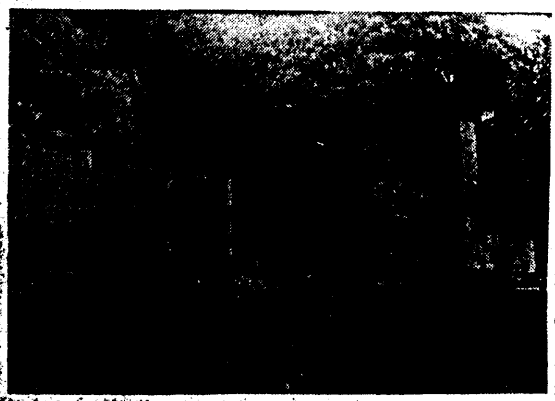
日中、こうにひそみ、夜、一部隊二十四人が二手にわれ、戦車地雷の敷設に出発した。

地下タビの足音をしのばせ、やみのなかでジグザグに走る。

背中には地雷を背負っている。戦車の通る長い道に出た。背をさせよう、手で土を掘る、円筒（ロ）では音がする。そのまたなどしゃーまるで、半日もかかっているようなあながあく。鋼つたに地雷を入れ、安全ピン、一部隊長の兵ヘルメット（札幌市）をかぶって通る。

「伊坂、こいッ！」

軍医よばれ、音もなく近寄るやつついた。地雷敷設信用のすこし手前におかさなるように倒れている。そばへよってゆすってみた。みんな死んでいた。



大頭の陣地あとに遺骨を集めた和尚之等が建っている

「七師団戦記・ノモンハン編」の予約出版をお申し付け中です。

だれか、サンゴ礁のかけらにつまずいたらしい。にぶい音が、やみにひびく。とたんにものすごい一斉射撃の集中・タマがどこから飛んでくるのか・全然見当がつかない。伊川軍曹が金属線をかけた。集まったのは十六人。

「伊坂、こいッ！」

軍医よばれ、音もなく近寄るやつついた。地雷敷設信用のすこし手前におかさなるように倒れている。そばへよってゆすってみた。みんな死んでいた。

「七師団戦記・ノモンハン編」の予約出版をお申し付け中です。

七師団戦記

あゝ沖縄

<113>

戦没二万八十五柱の霊にささぐ

山1027部隊

忙しい防疫給水隊

陣地構築や切り込みも

市立水療病院（〇六分発）五月末入院中の村上友之助さん（山二〇七部隊・第二十四師団防疫給水部）の夫人よさんから二十一日ハガキがきた。

「主人の病状はますます悪化するばかりで、快方に向かうなどとは遠いものになりました。山第二〇七部隊の最後について、主人はくどくしております。いまとなっては義理なとできませんので、PW時代（沖縄での収容生活）の新聞などをお渡ししたいと申しております。大げさなようですが、いつ亜（ゆ）かれるかわからない時ですので、いそいでください。お願い致します」

沖縄での戦傷が、村上さんの寿命をちぢめている。入院期、夫人自筆であいさつにこられた。在院ガンの悪化と大腸ろうという。このガンは、昭和二十年の事情を知っていただきたい。

十年六月十九日、金井部隊長（奏淵少佐、山二〇七部隊）はじめ本部要員は山長団戦闘司令所へみちびく途中、迫撃砲の弾丸射撃をうけて右脚を失明。その傷あとが膿んでくる。

この戦闘の六月三日から第二

× × × ×

病が進むと、ガンが盲腸をおかすようになるかもしれないーとの、その時、村上さんがいってかけた。

その後、部隊は中頭郡読谷山村にくらいし、もっとも平穏である。米空挺部隊麾下の海兵にさらされた場合は、山部隊の運命を決すべく、精鋭はもちろん、今力をふるってこれをせん滅せられんことを祈る」と訓示を受けた。

昭和十九年十二月末日、山兵団の移動で、最後部東風平（こちんだ）部落西方の西原部落（こしばるやーるい）に移動。部隊の所属の親兵百余人は、切り込み部隊員として、捜索第もおられるかも知れないが、以二十四連隊（山二四七八部隊・もとらるかも知れないが、以二十四連隊（山二四七八部隊・長・高田男大佐少佐、熊州第一長隊たちも遠方にやっていた。

【「部隊の位置は、農尻中央部にくらいし、もっとも平穏である。米空挺部隊麾下の海兵にさらされた場合は、山部隊の運命を決すべく、精鋭はもちろん、今力をふるってこれをせん滅せられんことを祈る」と訓示を受けた。

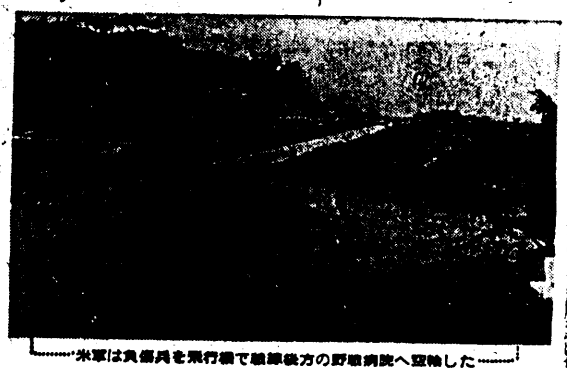
昭和十九年十二月末日、山兵団の移動で、最後部東風平（こちんだ）部落西方の西原部落（こしばるやーるい）に移動。部隊の所属の親兵百余人は、切り込み部隊員として、捜索第もおられるかも知れないが、以二十四連隊（山二四七八部隊・長・高田男大佐少佐、熊州第一長隊たちも遠方にやっていた。

西原部落で陣地構築中の金井部隊へ、第三十二軍の高級参謀がやってきた。彼は

戦闘はまだ終わらないのかー

戦闘係は、さっそく見舞い状を書いた。同時に、村上さんはじめ同部隊の人々の資料を渡した。

沖縄での戦傷が、村上さんの寿命をちぢめている。入院期、夫人自筆であいさつにこられた。在院ガンの悪化と大腸ろうという。このガンは、昭和二十年の事情を知っていただきたい。



米軍は負傷兵を飛行機で戦線後方の野戦病院へ空輸した

【「七師団戦記・ノモンハン」の予約出版を受け付ける。

戦記係から

戦場にさかんに爆弾がなげられる中にて、事態の切迫を感じていた。

設をこしらえこすり陣地構築をしたりしていて、事態の切迫を感じていた。

戦場にさかんに爆弾がなげられる中にて、事態の切迫を感じていた。

設をこしらえこすり陣地構築をしたりしていて、事態の切迫を感じていた。

くらいの夜道を走り、ガソリンスタンドのドラムかんをのすんできて、くるひにかかす。夜、点けはずす。

聞手・山第二四七八部隊・高人ハルさん（分隊附）

一部隊の兵ハルさん（分隊附）

人ではい、夜間は出歩いて、

朝の部隊とゴールイン・ねい。

（ゆ）

七師団戦記

あゝ沖縄

<111>

戦没一万八千五百の霊にささぐ

沖縄守備の日本軍の未曾有の異変をつたえた話のほうが、古今東西、価値あるものとされている。

せっかくの死者に、二級資料の使用は気がひけたので、一級があるかぎりそれを使用してきたが、沖縄戦の真実をつたえるためには、事実をゆがめるわけにはいかない。今後、二級資料でつなぐ個所もあると考えられるので、おゆるし願いたい。

× ×

大隊司令へガソリンを運んだ兵隊は、涙を流してよろこぶ。住民一女、子供、老人たちにむかえられた。戦争や自然に、血気さかりの兵隊は、人間の情にも飢えていた。

だが、こうした気分も、米軍の猛烈な砲撃が大船団を組んで北上しつつあるとの報告に一掃される。一週間もすると死体は骨になり、だれがだれか、わからなくなる。収容所のこの内は

負傷兵心理

激しく泣き叫ぶ

痛みも柔らぐのか……

沖縄守備の日本軍の未曾有の異変をつたえた話のほうが、古今東西、価値あるものとされている。

せっかくの死者に、二級資料の使用は気がひけたので、一級があるかぎりそれを使用してきたが、沖縄戦の真実をつたえるためには、事実をゆがめるわけにはいかない。今後、二級資料でつなぐ個所もあると考えられるので、おゆるし願いたい。

× ×

大隊司令へガソリンを運んだ兵隊は、涙を流してよろこぶ。住民一女、子供、老人たちにむかえられた。戦争や自然に、血気さかりの兵隊は、人間の情にも飢えていた。

だが、こうした気分も、米軍の猛烈な砲撃が大船団を組んで北上しつつあるとの報告に一掃される。一週間もすると死体は骨になり、だれがだれか、わからなくなる。収容所のこの内は

[illegible]

[illegible]

[illegible]

七師団戦記

あゝ沖縄

<145>

戦没二万八十五柱の霊にささぐ

涙を流して食べる

一カ月ぶりの米つぶに

めし

ひとつぶもはいっていないんだからなあ。一月にカンパンを三ツか、四ツ食って生きてきたんだ。ほっぺたがおちるほどうまいーというのは、こんなめしのことをいうんだぜ」

☒　☒

夜になった。トラックが着いた。招集隊の兵隊がのっている。彼たちは前線へ負傷兵収容に出発して行った。そのあいたトラックに、衛生兵全員で負傷兵をつむ。すぐ出発。

「さあ、これから行く野病（野戦病院）は、どうかすいていますように。患者を収容してくれますように…」

そのとなりの患者が感慨ぶかげに

「むりもないさあ、俺たちの軍曹のいつもの祈り。

「俺のところは、もう、こんようなことになったぜ…」

走りだすトラック上で、村上軍曹のいつもの祈り。

「俺のところは、もう、こんりんさいはいらんゼッケンスグスいっていないで、早くうせろ！」

野病の軍医はどなりまくる。気がたっているのだ。どなられたときの悲しい、いらだちは、どこにもふりむけようがない。どこの野病も満員。走りまわっているうちに、夜がしらじらと明けかけてくる。間もなく敵機が飛来する。

村上軍曹は患者をのせたトラックに、西原地へひきかえし

ここも、こう内から患者があふれ、入り口付近からくさりはじめて、ぎっしりならべられている。砲弾が落下しはじめる。患者の箱はおろしもそこそこに、地面へ伏せるほかはなかった。

☒　☒

国場駅の真正面付近は、連日艦砲弾、迫撃砲弾が集中する。死体の上に死体！よくもこんなに思うほどの数だ。

なんともいいようのない悪臭がただよっている。ここを通るときは、呼吸をとめて走りぬける。ゴム風船のようにふくらんでいるのは、死後三日目くらいの死体。あとは銀バエが群集、ウジで真っ白。七日目ぐらい虫群であった。

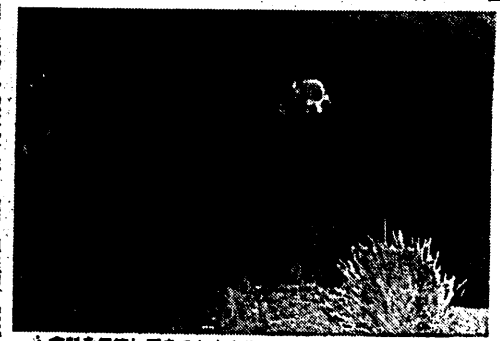
☒　☒

以下、糸満市真壁（旧小禄村）の手記によって、この部隊の戦闘をつづる。

糸満市真壁は、沖縄上陸当時、山三四七四部隊（長・吉田勝大佐）第三大隊（長・田川大尉）付衛生上等兵であった。のち、真壁の臨時戦病院（真壁国民学校）に開設され、十月十日の空襲で付近の山地に退避し、のち開ケ中で終戦を迎えた。

「七師団戦記係から」

記・ノモンハンの死闘」の予約出版を受け付け中です。



食料を保管してあつた一と住民のいう前田付近のこう。住民たちは、不発弾の爆発をおそれ、こう内にははいらない。

（糸満）に転戦。翌月真壁国民学校に移動。現地で負傷兵約千人（二千名三月二十五日、山三四七五部隊が真壁国民学校に収容）百人、女学生二十人を真壁国民学校で手当て中、空襲が激しくなり、真壁国民学校を出発、摩文仁村（糸満市真壁）に移動。翌月二十五日、山三四七五部隊が摩文仁村（糸満市真壁）の学校へ入る。

（利根市・記）

七師団戦記

あゝ沖縄

<146>

戦没一万八千五百柱の霊にささぐ

まるで活火山のよう

吹き上げる土砂、鉄片

荒れた首里

藤沢軍曹は、その後第二十四師団軍医部（三四三〇部隊）に付きを命ぜられ、与座で勤務中米軍が上陸、部隊とともに津嘉山に転進した。

『艦砲、爆撃が一日ごとに激しくなる。津嘉山周辺は、ふき上げる土砂、鉄片で活火山のよう。きのうの地形は、もう、きょうの地形、変ってはなかった。

四月下旬、師団長・司令部中将の救護員として随伴。嘉津山陣地から首里の第三十二軍司令部へ乗用車とトラックで疾走した。

照明弾で全部内、夜昼の区別がつかないほど明るい。ホはライトを使わない。デコボコ道を全速力で走る。艦砲弾のサク裂が車を揺動してくる。道路には大穴があり、時々、停止しなければならない。車上でゆっくり眠れ、鉄りん弾がサク裂。気が遠くなるような気がした。自傷者が一人もでないのがふしぎなくらい。

首里に到着。星の輝き一点もないくらいに荒れはてた市内を一行は師団長を中心にして走りつづけた。

軍司令部の入り口は深い斜坑であった。ひさしよりの電灯。その光りをたよりに斜坑をおりる。ひときは明るく、ひろいところに出た。軍司令部員の活気にみちた動きと音声！（これは、あとで気がついたことだが、日本軍の総攻撃に対する打ちあせたったと思うーと藤沢軍曹は書いている）

××　××

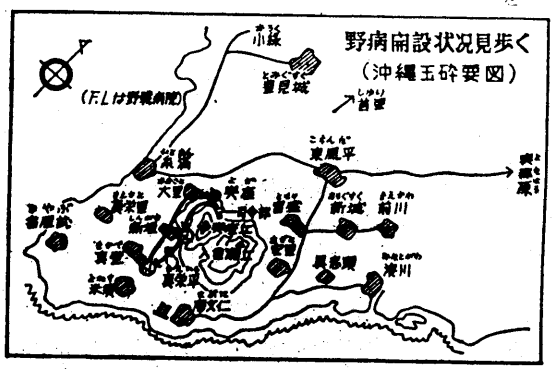
五月四日午前五時。

『軍医部員、口をきませック』

藤沢軍曹は、ハッとして姿勢を正した。その頃七軍医部長の声。

『いまから、約三千分後に、わが軍の総攻撃が開始される。この総攻撃は、わが軍の運命をかけた一戦である。

われわれ軍医部員としては、



藤沢克巳軍曹作成の略図

総攻撃以後、自傷者が急増、戦況都の各地に臨時野病が開設された。軍医部長からその視察

ていた。戦況は刻々きびしくなる。この総攻撃は、ぜひ成功させなければならない。頑張れ！」

『門前、どうぞ！』

総攻撃以後、自傷者が急増、戦況都の各地に臨時野病が開設された。軍医部長からその視察

口から出てみると、すでに転進命を命ぜられた陸軍軍曹は、兵一人をつれ、大川部隊経由新城、高嶺、高良の道路を出発した。

午後の司令部をさらに出発した。

山付近の敵兵陣地から、米軍占領地めがけ、砲音をひびかせて巨弾が撃ちこまれていた。

の光線は時とる。照明弾が二つ三つ。満月のようだ。艦砲弾もつぎつぎつづけている。

大里から与座岳へ登る。岩石の多い斜面で艦砲の爆風が降りそそぐ、立往生だ。耳もきけるばかりにゆう音弾、鉄りん弾がサク裂する。無数の鉄片に、鉄塊が雨より大きければいいのにーと祈るような気持。

午後十時ごろ、新垣到着。野戦へ行き、司令部からきたことを伝ぜ、ロ内を案内してもらう。

人せきつくつたが、広くて余裕があり、感謝している。新生材料の手持ちもあるようだ。収容されている負傷者は約百人。重傷者がすくなく、うめき声が聞こえない。おちついた、条件のいいところだ。だが、これ以上の収容は困難と判断した。（このときつくつは、山兵団主命の時司令部の一部と歩兵、工兵の本部ならびに師団通信隊の最後の陣地となった）

戦争体験からの

23・ノモンハンの死闘

【七師団戦記】

戦争　山第二四七五部隊下風一郎軍長の出ハルさん（札幌市・主婦）

七師団戦記

あゝ沖縄

<147>

戦没一万八十五柱の霊にささぐ

洞くつ内のまち

雑貨屋など店開き

日常生活をそっくり移す

野村部落から真栄平部落へ行こうと、摩沢軍曹がこう名出た時、初年兵時代の戦友山岸（札幌）に声をかけられた。枝は武兵団所属だったが、負傷になったという。二人は、こうこひきかえし、同年兵の大岡、小野寺（ともに札幌）小島（静内）岡本（門別）の安否を気づかい、つもる話や、これからのことなど、しみじみ語りあって別れた。

真栄平の野病は、まだ開設されていなかった。しかし、真栄村の野病が今晩開設される！聞き、すぐに出発した。

真栄村の東北方百米に、わずかに絶壁する野病がある。そこに野病になっている自然洞（ほら）穴の入り口があった。

村人たちは、内部の整地、寝架、つぎつぎと負傷兵を衛生兵が担ぎ込む。

担架の両側に村人たちがつめかける。

「こんなになって…かわいそう」

「ほらいけがだ！」

涙をポロポロこぼすもの、声をあげて泣く婦人、輸送中に絶命した負傷兵の遺骨を抱るものなど、開設途中の真栄野病は、ひどい混雑だ。この戦闘のように、村人たちの叫び・トラックが、村をしんでとまった。どれもこれもつめこむだけつめこまれた負傷兵のやま。一瞬、なまなましい空気がただよい、むこたらしさに、一同ほう然！

「何をしているッ！早くしろッ！」

「担架ッ！担架ッ！」

「ぼんやりするなッ！早く、早く…！」

衛生兵の怒声・負傷兵のうめき・血臭ぷんぷん殺気がはしった時ごろ、母座の司令部へむかい、傷病についた。軍曹は

〈真栄平部落の洞穴のほうへ〉

と藤沢軍曹は推定し、明方四時ごろ、母座の司令部へむかう。

担架の両側に村人たちがつめかける。

「こんなになって…かわいそう」

七師団戦記

あゝ沖縄

戦没一万八十五柱の霊にささぐ

<148>

ウジと兵隊

からだ中はいまわる

重傷で、はらいのけられず

負傷兵輸送のトラックのひびき、機関銃サク裂の合い間、あいまに聞こえてきた。ヨロヨロと、やみのなかに近づくのを見れば、四台が四台とも、運転台の屋根がない。機関部のカバーは破れ車体はタマのあとだらけ。

その時、上空に爆音。敵機の機銃、照明弾サク裂。クヲ、リレ、トラック、負傷兵、衛生兵の姿がうかびあがる。

トラック上の負傷兵は、死んだように静かだ。意識してではない、もう精根を使いはたし、声も出ないのだ。軍服は焼けきれ、金属に近い。厚くもられた匂和、ウジのわいた傷口。

飛行機は機銃掃射も爆撃もしなかった。担架兵たちは気合いをかけ、手早くトラックから負傷兵をおろし、洞穴上の広場にならべる。トラックは作業を終えるやいなや、全速力で前線へ去って行った。百人以上の負傷兵を前に、衛生軍曹ら厨病動務員は途方にくれる。

だが、このまま放置してはおかれない。衛生隊はじめ防衛召集兵、看護婦、十五、六歳の娘たちが、目をつぶってるために、外の砲弾の穴へ捨てていた。

重医は手術をうちこんで手術をする。だが、手術をうけた負傷兵は、つぎの日あたりからようすがおかしくなる。衛生軍曹は、両手で、その負傷兵の頭をもちあげると、胴体ごと上がってくる。うなじが硬直するのは破傷風の徴候だ。

「ああ…やっぱり、だめか…」

救いのない絶望感。無力な自分。どうにもならない悲しさが胸をつく。

ほとんどの負傷兵は砲撃破片創患者だ。炭創患者はごくすくない。従って、金属が、ひどい傷をうけ、破傷風やガスエソにおかされる可能性があった。

運ばれてくる患者の増加に並行し、死者も増加する。担架の利用がひんぱんだ。はじめは、死体を壕内の穴へ埋葬し、土をかけていた。つぎつぎの穴へ捨てるだけでも一週間かかった。傷口にウジが密集し、こぼれ落ちたウジは負傷兵の舌をはいまわっている。重傷兵はウジの中に寝ていた。軽傷兵は、寝台に腰掛けて、ただウジのはいまわる光景をぼんやり見ている。とても払ってやるどころではない。連日の雨で、洞穴内は雨もりがし、みんなの毛布はスプぬれ。その不快感さえ、さけようがないのに、他人のウジなど、かまってはいられなかった。

手術室では、毎日のように手や足を切断する手術が行なわれた。手術灯に照らされたあかのうえに、からだから切りはなされたそれらが、なまなましくころがっている。

軍医一下士官二で負傷兵一千人の負傷交換をひとりおりすがあくまで頑張る手間がはぶけ、士をかけるだけですんだ。

だが、次々死ぬので、土をかけるひまがない。外へ運び出し、けが中です。

立哲、高左らが協力し、負傷兵一人一人を担架にのせ、くらい。連日の雨で、洞穴内は雨もくて広場のない洞穴中へはこび込む。その苦労は並みたいていではない。

すでに負傷兵は一千人に近く、いくら衛生兵が必死になっても担ぎ、人員の不足で手当てができない。破傷風、ガスエソで絶命する者が続出する。だがみなさん、ほとんどの負傷兵を、たたかっているけど。

【戦争体験から】「七師団戦記・ノモンハン」の予約出版を受け付けるひまがない。外へ運び出し、けが中です。

北海道留萌（山岸図）戦争の悲惨に遭遇した第四師団第二高女生の手りゅう弾自決はこれがなされた！（旧高砂村）白樺之塔のそばの洞穴！

題字　山岸三郎（北海道留萌）真一郎軍曹の母ハルさん（北海道不休、戦争と戦争不足で、だれ・・・

七師団戦記

あゝ沖縄

<149>

戦没一万八十五柱の霊にささぐ

地獄絵図

傷口にウジがわく

雨もりつづく洞穴内の野戦病院

まっくらやみ！地のそこの新野戦の洞穴内に、雨だれの音が高くピンピンひびく、大地に吸いこまれた雨水が、雨もりとなって落ちてくる。

リズムをきざんでいるようだ。手びょうしをとっているみたいだ。

雨だれの音のコンダクター。くらやみの中から悪しい、腐ったスチームを出しつづけたような臭いすっぱい匂いがもれてくる。絶叫がもれてくる。怒号の後絶。うらみのこもったつぶやき。底鳴が、時間空間を一気に切りさく。

言葉を吸するうめきは、生命の奥底からひき出されやうな動物にしている。

雨もりのつづく洞穴内は、全身くまなくぬりこめられたような過和感に、自分がナメクジになってしまったような気がした。底をした暑さ、湿気、疲労、寒さ、すでに皮膚、粘膜、筋肉は機能を失っている。そのうえ大変なことに、中枢神経が、うるけきったウドンのようにとけかかっている。

雨音は、岩はなをクッション とコマ ひとコマをリアルに演出する不吉なディレクターだった。「おかあさん…おかあさん私を助けてネ。お願いです、なおしてください ネ。どうか、たのみますネ」

幼児があまえているような泣き声 死期を目前に、たのしかった幼児のころにもどって、しきりに母を呼びつづける兵隊。頭じゅうのヒゲが、汗にぬれて光っている。

「新生兵隊、たのみます」

繁えあがるタイマツは、地の底の洞穴の中、ひん死の負傷兵がひしめく地獄の舞台。そのひとコマ ひとコマをリアルに演出する。それは暗く、にぶく、遠くあるようつづける原沢宮吉軍曹（当小牧市長私二区）は、地を

リぬらしている水気のように、雨ガイ骨の内側に汗とたってはりついてもう、なんの用もなさない幻覚にとらわれる。

遠くから小さな火がひとつ、フラフラ飛ってくる。血のように赤く、メラメラ燃えるはだか火、黒髪と見まちがう煙を上へ高く立ちのぼらせ、あちら、こちらと何か不幸をさぐり歩いている。

あれは、竹の太い一節を切りとって灯油をいれ、木綿布を汗にぬれて光っている。

「新生兵隊、たのみます」

地獄村仲間部落の諸和之峯に収容された遺骨

「おいッ、ごら、新生兵ッ！」

地獄村仲間部落の諸和之峯に収容された遺骨

地獄村仲間部落の諸和之峯に収容された遺骨

地獄村仲間部落の諸和之峯に収容された遺骨